明治二十七年八月二十五日第三種郵便物認可

April 20th 1904.

Report of the Sericultural Association of Japan.

NO. 148.

大日本蠶絲會報

第百四拾參號目次

論叢

●時局に於ける蠶絲業者の覺悟　農學博士　酒勾常明
●玉絲製造業に就て　鹽谷清多郎
●時局に對する蠶絲業上の注意　農學士　本多岩次郎
●蠶體内に於ける物質分解に關する研究　山崎德吉
●作蠶絲に就て　農學士　中村產
●日露の實力と戰爭の終局　橋本重兵衛
●製絲器械の發明　調中文助

雜錄

●生絲の小白點に就て●天然絲製造業●生絲職工事情

叩問

●歐米蠶絲業概觀　農學士　石渡繁胤

講莚

●產業組合概論　農學士　月田藤三郎
●汽罐使用心得　工學士　芳賀愁治郎

問答

●桑樹代文の件に就き問答●呼吸器に就き質問答●蠶の件に就き質問答●蠶の件に就き質問答●蠶の件

●會員諸君に望む

春蠶期は蠶業季中最も重要の時なれば全國養蠶上の現象を相集め會報に掲載し蠶業家諸君の參考に供し度候間時節柄御多忙の事とは被存候へとも各地養蠶上の狀況に就き左記の通り御報道に接し度特に希望候也

一、桑葉發芽の模樣
二、桑葉の價格
三、蠶種掃立數若くは蟻量
四、蠶兒掃立期日
五、各齡の經過
六、上蔟時日
七、收繭の豫想
八、收繭の價格
九、其他桑葉被害の有無及蠶作の豐凶等

參照となすへきもの

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報廣告料（三十六年十二月改定）

	特等			並等			
	一頁	半頁	百分ノ一頁	一頁	半頁	百分ノ一頁	一行
一期乃至二期 會員外	十二圓	七圓	四圓	十圓	六圓	三圓五十錢	廿五錢
會員	十圓	六圓	三圓五十錢	八圓	五圓	三圓	二十錢
三期乃至六期 會員外	十圓	六圓	三圓五十錢	八圓	五圓	三圓	二十錢
會員	八圓	五圓	三圓	六圓	四圓	二圓五十錢	十八錢
七期以上 會員外	八圓	五圓	三圓	六圓	四圓	二圓五十錢	十八錢
會員	六圓	四圓	二圓五十錢	五圓	三圓	二圓	十六錢

一頁は一行二十七字詰七十二行とす
四分の一頁未滿は行數を以て計算す
特等は四分の一頁未滿を謝絶す
廣告料は前金に限る

●本報定價 一冊 金拾五錢 一ヶ年分前金壹圓五拾錢

明治三十七年四月二十日印刷發行

編輯兼發行人 東京市神田區美土代町三丁目一番地 小池市松

印刷人 東京市神田區美土代町二丁目一番地 島連太郎

印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地 三秀舍活版所

發行所 東京市神田區美土代町三丁目二番地 大日本蠶絲會（電話本局一四七三番）

論叢

時局に於ける蠶絲業者の覺悟

（大日本蠶絲會第十三回大集會に於て）

大日本蠶絲會 副會頭 農學博士 酒勾常明

私は唯今博士と云ふ御紹介でありましたけれども極く薄い方でありまして、「はくの字が逢つて居る方であります、先刻前條君が知らぬ人より知つて居ると云ふことを言はれましたが、私は則ち知らぬ人の方に屬して居る者で甚だ嗚呼がましき次第でありまするが、諸君の驥尾に付いて私も一言致します。

此度の時局即ち日露の戰は何時濟むか、長いか短いかと云ふことは何とも今日判斷することが出來ませぬのであります、併ながら除り短くはあるまいと云ふ說が多いやうであります、並に長いであらう、私も此點は決して短くないと思ふて居る次第であります、先日も或專門家の話を聞きましたが歐西强が近年の海軍の擴張と云ふものは露西亞本國の防禦の爲めとか、或は露西亞の商業の保護の爲めとか云ふやうに、即ち其比例を立ない、或は人口と海軍との比例とか、それ等のことも餘程能く調べた人が居てあるやうですが、總て露國の海軍と云ふものは非常なる擴張であると云ふ事が、斯ういふ結果になつて居るさうであります、去れば此歐國は非常なる海軍的擴張をしましたが、之れに對して東洋に於て何か事が爲し得る目的でもあるかと思はれる、即非常なる擴張をなしたのは、即ち歐羅巴の中で最大の數備を以て居ると云ふやうな次第であります、又數備の金を使つて非常に迅速に西比利亞鐵道より滿州に渡つて東清鐵道を發達致したことでも深く注意のあるところであつて、斯る急激及び決心を有して居る歐國でありますから、中ゴロ一度の敗北位で決して挫折するものではないのみならず、歐米と雖も畏怖して居りましたところの大國でありますから、此大國が小さな日本の爲に敗られたと云ふ

ていさい、さい引っ込む譯のものであるまいと思ふ、又其國は人は多い、馬は澤山ある、穀食は澤山ある、去れば戰爭から各國との金融の關係、商業の關係は極く多く、去れば商業上に惡徳を惹起すが爲に早く東さを作ればならぬと云ふ事情が彼の國にはない、斯樣な點から見ますれば此東さは小々長いやうに思つて我々は其覺悟を以て之に當らんければならぬ、ソコで其覺悟と云ふものは勿論生産に從事して居る者は、即ち生産を努めることであつて大に蠶絲業のことを努めなければならぬ、別けて戰爭に最も必要なる正金は此蠶絲業の力で日本は吸收して居るのであります、さうすると云ふものは平素は勿論御承知でありますが、肉ほ此軍國の場合に於ては最も緊要なる關係を有つて居る。

ソコで此蠶絲業の本は何であるかと申しますると、即ち桑園である、桑園のことに付て私の感じて居りますることは、此桑が蠶絲の業の本である、然るに桑園と云ふものに於て一つの困難があると思ふのであります、其困難は何であるかと云ふと所謂天然の作用であります、此天の力、天然の作用と云ふものは極めて廣大なる働を爲す、廣大なる力を有つて居りますものので、是れは人力で防ぎ止めると云ふことは餘程難いのであります、先づ米或は麥に付ても同樣であります此米、麥と云ふものに付ても農事の經驗上種々に改良手段を講ぜられて居りまするが、此時候の惡るい或は非常に天氣が寒いとか、或は非常に雨が降ると云ふ、又非常に乾くとか、斯う云ふ天然の働を防ぎ止めることは全た人力では出來ないのである、去れば如何に農業を巧みに行ひましても一朝時候が不順なときは因作を苦げると云ふことになる、桑園も同樣であります、若しも桑が室内で出來るものであれば人力で防げる併し屋外に出來るものであるから中々天然の作用を妨ぐことが出來ない、依て桑園に於きましては霜害の豫防が出來るやうに桑の作り方を研究し、又實際作ることが餘程必要なと思つて居ります、併し是は平常のことでありまして、今日時局と云ふ場合に於きましては矢張此事に最も注意を拂はなければならぬ、先日鮮馬縣に參りましても話をしたとき、「肝腎の桑が又霜の害を被つて蠶絲も出來ない」と云ふのは甚だ殘念である、依つて本年は桑を多く作る所は番人を置いてさうして能く寒暖計に注意して霜の被害があれば烟りを出して防めるだけは是非共やつて貰ひたいと云ふことを述べた次第でございますが、私は此事は餘程此度必要なことと思つて居る、尚ほ其烟りで防めるよりも宜い方法があれば宜いのである、又將に霜の時節に近寄つて居りますが、其間は寒い時機はさう長くはありませぬ、二十日間位のことで、其間は各村々にあつて夜番なりを設けて此豫防のことを講ずることが最も必要なことであらうと思ふ、それから此桑に大豆粕を用ゆる習慣がありませぬ、是れは馬が殺發されて馬が減つたから積肥が減つた、此肥料の缺乏が直ちに桑に影響を及ぼすから、是れは各地農會から盛に心配して大豆粕も馬糞も減つたけれども桑の生産の衰へないやうな其途を講ずることは種々盡力中でありますから、諸君も御承知でありませうが、私は其方法は更に此所で述べませぬ。

永は蠶繭のことであります、此蠶繭に至りましては唯今の桑と違ひまして、既に桑が能く出來たとすれば此蠶繭は必ず宜く出來ると云ふことに關係を有つて居るのであります、如何となれば蠶繭は即ち人力で以て左右することが出來る、是れも以前は出來なかつたのであります、暑いとか、寒いとかの爲に屋外に養蠶の不作を告げました、此事實は尚ほ今日支那に於て見ることが出來ます、支那の養蠶は或は七年に一遍しか取れぬとか、三年に一遍取れば或に幸福であると云ふ事情のあるのは、即ち天然の事情と人力で左右することを知らないからであります、日本に於きましては即ち寒暖計及び濕度計と云ふものの働で能く用ひて居ることを計り、暑い時も直ぐに計り、寒い時も直ぐに計り、乾いて居ることも計り、濕ることも計り、其天候に依つて適當な空氣に養蠶を致します、斯樣にして適當な空氣に養蠶を致しまするから不作をしない、即ち本に於ける養蠶の發達に落つるのであります、又此結果は日本に於ける養蠶絲業に對する學問の力に偏に據つて居ることであると思ひます、勿論時候は天然の作用にあることは、先刻申しました米或は桑などに對すると同じてある、併ながら既に是れは一室内では天の力が限られますから、小さな室内であれば人の力で如何樣にも出來るが、家の外にあると人力では如何ともすることが出來ないことであります、又微粒子病のことなどは段々今日は種を撿査して惡るいのは排斥して豫防の途を付けて居る、それから種々の病、微菌其他種々の原因に依つて起る所の蠶病に付きましても大概原因、豫防の方法は分つて居つて、即ち人力で以て之を防ぐことが出來るのであります、又先刻工藤君の種のお話の如きも即ち病の貯藏のことも人力で如何樣にも出來る、蛹青のことも今は技術が知られて居る、肇之を行ふと行はぬとに依つて即ち結果の善し、惡しが分れるのであります、行ひさへすれば十分人力で收穫を得る場合になつて居る、今日戰爭に從事して居る者は皆陸海軍人の力である、我國は軍人としての働は世界に認められて居るが、未だ殖産家として生産者としての價は未だ世界に認められて居らないのであるから、一つ此生産の働も軍人に劣らぬやうに我々人力を盡したいと思ひます。

それから次に絲でありますが、絲のことも次第に改良進歩を告げた、先刻は段々醫樣のお話もありましたが、此事に付ては私は技術上のことは知りませぬが、本年の絲の貿易は戰爭で大分兵隊に出る人なども多いますが、併し先刻南條君のお話の如く着着つて勉強すれば二十萬や、四十萬の人が居ないでも後との人が引受けてやることが出來ると私は信じて居る、殊に此養蠶業に於ては養蠶製絲共に多く婦女子の手に行はれるのであります、其婦女子は戰役には從事しないのであります、其點に於ては蠶絲業のことは他の事業より

り恐るゝ點が少ない、斯く云て生産は平年に劣らず出來る、其絲の需用の點に於ては明に需用の減る點があらうと思ひます、それは即ち日本の絹織物であります、然るに京都の西陣あたりの事情も新聞に出て居りますが、私も先般彼の地の人に聞きませたが、西陣の職工の如きは炊出し飯を與へて維持して居ると云ふやうな次第で何も用はない、又群馬縣に行きました時に知事から話を聞きましたが、桐生に於て絹織物の初市を聞いたが、其初市は何時も昼に買人が來るのでありますが、本年は僅三人來た、其三人の中で、二人りはどのみち市が有つても、無くつても來なければならぬ人であります、隣市の爲に特に來た人はタッタ一人りであります、何ほど又絹物でも或は綿絲の混ぜ織物などもあります、品の廉い所は相當に需用がありませうが、併ながら上等の絹織物は先づ當分の内は金の有る人も買はないと云ふので、餘程需用は減ずるのであります、左すれば内地の絹織物に消費する生絲はどうしても當年は少ない、從つて餘りが出る、どうしたらよいかと思ふ、出るべき本年は生絲を外國に餘計賣ると云ふことに成るも云へるが、此時であります、どれは成るべく多く生産して出す方が最も注意すべきことは其生絲の品質を決して粗製濫造に於て製濫造と云ふことは同時に何時でも品物の多少は必ずしも一時には一度に必ずしも一時に出て來ると云ふ事が出て來ると云ふ事は必ずあります、此の場合に於て品質を決して粗製濫造に於て必ず粗悪の廉い爲に勢ひ宜い絲を造れぬと云ふ事が出て來ると云ふ事は必ずあります、

合計六十三圓

右は生春繭百貫を繰糸したるものにして原繭代金百八十圓乃至二百圓を要せり、夏秋蠶又は支那繭を繰糸する場合は總て此の二三割多量を要すと云ふ、而して之れより生ずる屑物は、

一生皮屑　一出繭
一蛹殼繭及ゝ又ゝ　一貫八百匁
一貫百匁

此代金九圓七十錢
此代金二圓五十錢
此代金十三錢
合計二十五圓四十錢

依て其の純益に近きものを打算すると右の二十五圓四十錢に玉繰代二百五十圓を加算し、原繭代二百圓と生產費六十三圓とを控除するときは二千二圓四十錢即ち是れなるべし、以上の如く二者相對照せる點なきにあらず、蛹を、大體に於て玉繰製絲の生產費を見知するに難からざるべし、尙茲に記載すべき事は近來幾等絲の賣行順良なる好なれと雖も、幾等は繰糸の良否に關係し、市價に著しき差異あるを以て、自然右の如く軟支に莫大の差別を生ずるものなりと云ふ。

第十一　繰絲器

汽鍋室は概ね繰絲場と別室をなし汽鍋はコルニーユ形を用ゐ、僅に三四馬力にして多く粉炭を燃料とせり、用水は汽鍋用、繰水用共に井水を使用し、フードポンプ或はランキーポンプを以て汲上げ、間々濾留して煮沸せずに繰糸するを常とす、更に之れに粒供を加（汚染、正形、片軟、片矢、鼠切等を撰剔し特に三蠶繭は注意して撰出せり、此繰絲し能はざる撰出繭の分量は普通本邦產のものは約一割内外にして支那繭は一定ならずと雖も約二三割なり、繰量は春繭最も多く、夏秋繭之れに次き、四化蠶最も尠なし、即ち平均生繭百匁に付七八匁乃至九匁なりとす。

煮繭の方法は普通製絲と概ね同一にして、先つ煮釜の湯を沸騰せしめ玉繭を投じ金杓子にて數回反轉し、繭全體に湯を浸透せしめ約十七八分を經は概ね熟度に達するか如し、之れを指頭を以て檢察するに普通製絲に比し稍々未熟の感あれとも、索と玉繭製絲の添足は委穗殼の尖頭をつて間斷なく添付するものなれば、最初の繰緒は敢て著しく変なし、寧ろ絲末に至り漸次過熟となり崩解してずる節を生じ絲條を切斷し、或は絲質を損ずる患大なるものあり、故に上等絲を繰絲する場合には特に未熟を貴ぶと云ふ。

索結の方法は稻の實玄等を以て數回繭面を撫で一繭より二本づゝの糸結に近きものを得ば集めて綿掛鈎に懸き付け微

第十二　繰絲法

玉繭の方法に付玉繰製造に至大の影響あるは飼育期の異なる玉繭にして春繭は各地產額最も多く且つ上蔟期暑々同一なれは之れを區別すること容易なりと雖も夏秋蠶及四化蠶繭は一定の時季に區別し難きが故に之れを撰別し難くして煮沸せず各別に繰糸するを常とす更に之れに粒供を加（汚染、正形、片軟、片矢、鼠切等を撰剔し特に三蠶繭は注意して撰出せり、此繰絲し能はざる撰出繭の分量は普通本邦產のものは約一割内外にして支那繭は一定ならずと雖も約二三割なり、繰量は春繭最も多く、夏秋繭之れに次き、四化蠶最も尠なし、即ち平均生繭百匁に付七八匁乃至九匁なりとす。

煮繭の方法は普通製絲と概ね同一にして、先つ煮釜の湯を沸騰せしめ玉繭を投じ金杓子にて數回反轉し、繭全體に湯を浸透せしめ約十七八分を經は概ね熟度に達するか如し、之れを指頭を以て檢察するに普通製絲に比し稍々未熟の感あれとも、索と玉繭製絲の添足は委穗殼の尖頭をつて間斷なく添付するものなれば、最初の繰緒は敢て著しく変なし、寧ろ絲末に至り漸次過熟となり崩解してずる節を生じ絲條を切斷し、或は絲質を損ずる患大なるものあり、故に上等絲を繰絲する場合には特に未熟を貴ぶと云ふ。

索結の方法は稻の實玄等を以て數回繭面を撫で一繭より二本づゝの糸結に近きものを得ば集めて綿掛鈎に懸き付け微き、委穗の尖頭にて順次刷掛け添足するなり、玉繭の糸緒は普通製絲の場合に於けるが如く完全なる結絲を求めんとせは自然屑絲を多く出し結絲量を減じ損ずるなり、玉繭の糸緒を繰絲する場合の外充分の糸緒を行はざるを通常とするものゝ如し。

添緒の方法は前記の如く委穗殼の尖頭を以て間斷なく添付するを普通とせども、尙他にすくり付と稱し指圓を以て添付して上等絲の發切品を繰絲するか、或は見智工女に行はしめて添足するか、而して繊度を均一ならしむる爲めに工女の着眼する處は常に屑放しつゝ添足し、普通四五粒を目的として薄皮に至り七八粒迄に達するを標準とす、其委穗付の敏速にして巧妙なる實に賞讃すべきものあり。

（未完）

時局に對する蠶絲業上の注意

大日本蠶絲會
技藝委員　農學士　本多岩次郎

開戰以來經濟組織の事物は著しく之が影響を蒙り、或は貿易の不振となり、或は勞力の缺乏となり、或は資本の緊縮と為り、又は生産品市價の變調とはなれり、蠶絲業家なる者豫め生絲貿易の趨勢を講ずして可ならんや、是れ其生産力を永久に減殺せしめず以て國本の培養を忽がせにせざる所以にして吾人蠶絲業家の此際負ふべき重大なる義務なりと信ずればなり、左に項を分ちて之を述べべし。

生絲貿易　戰亂は總ての商業に對して一大妨碍を與ふべきは言を俟たざる所にして、殊に我蠶絲業の生産物たる生絲は過半其販路を海外に取るが故に日露の戰爭は其貿易上頗る重大の影響を蒙るか如き感を起さしむるは一應最もなる次第なるべしと雖も、是れ甚た杞憂に過ぐるものあるを感ぜずんばあらず、夫れ今回の戰爭たるや事東洋の問題に關し而も清韓の地に於て、生絲貿易上の關係極て僅少なりしに、彼の最大華客たる米國とは其交誼益々親密にして商業上の取引は益々鋭敏を極めつゝあるが故に、假令第二の生絲輸出先なる佛國に於ては多少の影響を蒙ることあるとするも、或は一時の變調に遭遇することあるとするも、之が為め直ちに決して販路の閉塞を見るが如きは不良の結果に陥ることは斷じて是れ無らざるべし、特に今回の交戰に付米人の本邦に對する同情は[illegible]に[illegible]說さるべき萬國大博覽會等は將來本邦生絲の售勢に就ては吾人は益々大の光明を豫期し得べきものあり、されば生絲貿易の將來に就ては吾人は露戰爭を氣遣ふよりも寧ろ歐米人嗜好の變遷を憂ふるものなり、故に吾人は此際衣服原料の隨一と

して完全の資格を備ふる生絲の品位を益々精に益々美にして以て組布に對する歐米人の嗜好を惹くの策を講ずるを以て肝要なりとするものなり。

蠶絲業上の勞力　壯年氣鋭の士の出征と軍需品の運搬等の爲め生産統會に於ける勞力の缺乏を告ぐると同時に、一般勞働の賃貸を來すべきは必然の理勢なるが故に、蠶絲業家は豫め之に對する準備を怠るべからず、先つ此際第一に養蠶家から蒙るべき影響は、桑園の耕耘及肥培の人夫、養蠶期中に於ける諸雇人夫の二なるべし、故に養蠶家は豫め之に對する準備を整へ桑園の耕耘及肥培を怠る爲に桑葉減收の不利を招くが如き事あるべからず、又養蠶期中雇人夫の不足よりして育蠶の手入を怠る爲めに蠶蛆の悲境に陥るが如き不覺なからんことを期せざるべからず、若し夫れ勞力の供給にして到底充分なる能はざる事情あるものは前者に在りては夏期以後初冬に至る間に於て之を省略し、又は飼育蠶兒の量を自家勞力に應じて容減するか、若くは比較的低溫度を以て飼育すべし、蠶室に於ては發芽の前及擇桑の後に於ける一回の耕耘は最も肝要にして容減し若くは粗略にすべからざるものなりと雖、以後の耕耘は殆と單に雜草の蔓延を防ぐに止むるも大なる障害なし、養蠶に於ては比較的低溫を以て蠶兒を飼育せば過に長時間を要すれども如時に多くの勞力を要せず、且大に飼育上人夫の不足より生ずる危險の度を減ずることを得ればなり、次に製絲家にありて蒙るべき影響は、

繭買入并に殺蛹乾燥雇人夫
工場現業員及工男

の二なるべし、故に製絲家は豫め之れが準備をなし繭の取扱并に殺蛹乾燥の方法粗惡に流れ爲めに繭價を害するが如き事あるべからず、又工場常務の員數不足して其管理行屆かず爲めに生産生絲の粗製濫造に流れざる機會め之が注意をなすこと肝要なり、而して工場管理其他重要の事務は勿論臨時の無經驗者を以て補ひ難きが故に一に工場主の精勵に待つの外なかるべく、殺蛹乾繭等の事亦製絲上頗る重要の事務なれば若減し得べきの勞力始と稀なり、故に勞力の驕貴より生ずべき失費は之を[illegible]の改良に[illegible]補ふ[illegible]外無かるべし、乾繭及貯繭法の不完全は實に現時製絲業界に於ける一大缺陷なりと謂ふべく、若し夫れ當業者にして此點に於て十分の改善を加ふるを得ては使役勞働の驕貴の如き殆と云ふに足らざるものあらん。

蠶絲業上の資本　戰時に於ては一般新事業の中止と商工業の不振の爲め資本家は其投資を緊縮するが爲め資本の運轉滑かならざるに、拘て加へて國債の應募は實業界より多額の資本を吸收し去るが故に之が缺乏は勢免るべからざる所なり、是を以て養蠶家か蒙る影響は

桑園肥料の購入
蠶種及蠶具の購入
蠶病消毒藥及器具の購入

等に及ぼすべし、故に養蠶家は豫め其覺悟を以て資本の供給を繰り合せ、以て桑園を肥培して收穫の多額を計り、蠶種及

蠶具は精良なるものを選擇し、又蠶兒の健全を圖るべし。

輓近夏秋蠶飼育の勃興甚だ急にして桑園の增殖之に伴はず、桑葉の供給は概ね之を從來の春蠶用桑園に仰ぐか故に桑樹の衰廢と共に著しきものあるは識者の夙に憂慮する所なりとす、然るに本年は下記の事情に依り更に一層の衰弱あるを想像すべき理由あり。

(一) 昨年秋蠶の豊饒なりし爲め桑葉の採收平年に比し多かりしこと。

(二) 目下時局の爲め肥料の給源頗る窘迫を告げつゝあること。

(三) 又勞力缺乏の爲め耕起培養の間を期し難きこと。

(四) 養蠶家は勞力の不足する爲め其分配上夏秋蠶の飼育の增加するに至ること。

(五) 製絲家は資本の給源潤澤ならざるか爲め之が運轉上夏秋蠶繭を需すること多かるべきこと。

是なり。

昨年の秋蠶は頗る豊作にして桑葉の摘採は各地共稍激しかりし狀況あり、幸に夏期以後の氣候良好なりしを以て桑樹の伸長平年は比し敢て劣らざるの觀ありと雖も地力の衰弱は殆と免れざるものあらん、而して今回の事變により本邦農家か從來主として使用せる支那大豆若くは大豆粕の輸入は全く杜絶せられ、北海の魚肥亦運輸の閉塞によりて頗る沸底を告くべし、思ふに肥料の供給は其價格の高低如何に係らず到底十分なるを期すべから子。

斯の如くにして向農家か社丁の出征により生ぜる勞力の減少を充分に補足し得ること殆と望むべからざる所なれば、耕耘培養の平年に比し一曾懇到ならしめんと固より期すべくもあらず、又養蠶家勞力の減少は春蠶飼育の規模を縮少するの已むを得ざるものありて爲めに生ずる收入の減少を補ふの必要あるに依り、夏秋蠶飼育の量は却て增殖すべく、製絲家に於ても亦資本緊縮の爲め春蠶繭の一期に集中すること能はざるの事情に依り、夏秋蠶繭に對する需要を增加すること一層大なるものあらん。

是に於てか夏秋蠶飼育の增加は必至の理勢として免かれざるの數なるべく、又之を現下の經濟界に於ける對症的の方策として必要の樂措なりと謂はざるべからず、而して夏秋蠶飼育の增加は即ち過度の摘採を意味し、桑葉過度の摘採は總て桑樹の衰弱桑園の荒廢を結果すべきは必然の數なりとせざるべからず、斯を以て當業者は可及的の力を以て肥料の不足は左記の二法によりて之を補ふの策を講ずることを忘るべからず。

堆肥の製造　馬匹の繁殖に依りて農家は堆肥の製造上主要の材料を失ひたるものなりと雖も、蕎麥稈、雜草、落葉等其他農場及行厠に於ける廢棄物等は殆と物として堆肥の原料にあらざるはなきか故に、可及的之か收集混積を圖るべし若し之に人糞尿下水其他金肥の少量を加へなば桑樹肥料として却て適當なるものを得ること難からざるべし。

綠肥の使用　豆科植物を桑園畦間に播種し其開花するに

先ち之を刈り乾し、若くは其儘に之を鋤き込めば肥料として最も貴重なる窒素肥料の大部分は殆と之によりて補ふことを得べし、但此場合に於ては灰の補肥を施すべし。

蠶種蠶具及蠶病消毒に要する物品の購入は宜しく適宜の方法に依り之を共同購入をなすべし、蓋共同購入の方法は最も正確且つ善良にして比較的低廉なる物品を得べきのみならず、販賣者に對し歌國の信用を保持し得べきが故に資本の運轉極め圓滑なる得べしけれども、余は各町村農會若くは產業組合等の今日の機運に鑑み此等有用の事業に着手せられんことを希望する者なり、尚望み得べくんば、

共同殺蛹乾繭

の實行を圖りたきものなり。

種蠶共同飼育　種蠶は勞力經費の關係上共同飼育の必要を認ぜらるゝの狀勢に對し最良の效果を得べきが故に宜しく之を共同飼育するのみならず、經營の方法に於ても宜しく之を行ひ、以て當業者の不幸を免かれんことを得て永く斯業の收益を增進することを得べし。

生絲賣易は其大勢に於て直ちに多くの影響を蒙ることなかるべきは前段論述せる所の如しと雖も、一般經濟界の變動と資本の緊縮とは製絲家原料繭の購買に對し如何の影響を與ふべきや未だ假かに速斷すべからざるのあり、故に豫じめ多少の注意を拂ふべきは思慮ある者の怠るべからざる所なりとす、本邦當業者は從來飼育の慣習に安じて取引の期間比較的短期なりしが故に、今日に於ては一般經濟界の變動に連過して直ちに生繭賣渡增を來かすか、恰も一種の青物市場の如き狀態を呈するに至りたるを以て、今日の場合に於ては出來る丈け長期の取引を爲すの方法を講じ、以て生繭賣渡增を來かさゞるの方策を講ずべし。

蠶具及蠶病消毒　蠶具は共同飼育の勢に對し最良の效果を得べきが故に宜しく適宜の方法に依り共同購入をなすべし。

蠶具共同購入　蠶具は共同飼育の勢に對し最良の效果を得べきが故に宜しく適宜の方法に依り共同購入をなすべし。

蠶病消毒　蠶病は共同飼育の勢に對し最良の效果を得べきが故に宜しく適宜の方法に依り共同購入をなすべし。

共同殺蛹乾繭　共同飼育の勢に對し最良の效果を得べきが故に宜しく適宜の方法に依り共同購入をなすべし。

共同購入　共同購入は資本の緊縮に對し最良の效果を得べきが故に宜しく適宜の方法に依り共同購入をなすべし。

共同販賣　共同販賣は資本の緊縮に對し最良の效果を得べきが故に宜しく適宜の方法に依り共同販賣をなすべし。

共同貸付　共同貸付は資本の緊縮に對し最良の效果を得べきが故に宜しく適宜の方法に依り共同貸付をなすべし。

共同運輸　共同運輸は資本の緊縮に對し最良の效果を得べきが故に宜しく適宜の方法に依り共同運輸をなすべし。

共同保管　共同保管は資本の緊縮に對し最良の效果を得べきが故に宜しく適宜の方法に依り共同保管をなすべし。

共同製造　共同製造は資本の緊縮に對し最良の效果を得べきが故に宜しく適宜の方法に依り共同製造

て甚に細說するを須ゐず、將來の天候を豫知すべからざるは勿論なりと雖も、本年春來の氣象狀況に依り考ふるときは吾人をして誠に憂慮に堪えざらしむるものあり、之を他來の實踏に徴するときは春時の氣候寒冷にして氣溫の昇騰急激なる年柄に於ては再び襲來する寒氣亦尠きを例とするが故に勤もすれば霜害の慘事を免かれざればなり、若し不幸にして此の如き異害を見んか當業者は實に千里を慮しと せずして桑葉の供給を霜害無き地方に仰がざるべからず、而して偶々運輸機關の停滯に際會せんか其慘狀殆と測り知るべからざるものあらん、是故に蚕業は晉に前記の如く桑葉の需給に對して注意する所あるのみならず、霜害に對しては特に深く戒慎する所なくんばあらず。

凡そ霜害豫防の事たる一人一己の力を以て能くし得る所にあらず、必ず郡村部落に於ける共同一致の勢力に俟たざるべからず、故に當業者は遠かに毎年毎部落に於て規律あり節制あるの規約を設け置き降霜の兆候に接せは一呼して起つの準備を爲すこと其だ肝要なり、是れ蚕業の今日切て勤布して日々怠り防ゝ面して所なり、霜害を豫防するには氣溫の冷却を防ぐ同時に日光の直射を遮斷するの必要なるも、黑炭の燒出、稻藁其他塵芥等の燃料は可成多く準備し置くことを忘るべからず、又製絲家の受くべき影響は、原料の運搬燃料の運搬製品の運搬等にして最大なる不便を感ずるなるべし、殊に原料の運搬は製絲家が一ヶ年中營業の原料を僅々數日の間に購入し之を運搬して殺繭乾燥をなし以て貯藏すべき最大緊忙の時期なるが故に、最も機敏なる動作と迅速なる運搬方法とを取るにあらざれば貴重の繭質を傷け莫大の損害を蒙るに至るべし、蓋し此等に就ては政府當局に於て夫々計畫せらるゝ所あるべしと雖も當業者は豫め其覺悟を以て原料の仕入に從事し從來重もなる當業者の有り來れるが如く成る可く繭仕入地に於て殺繭乾繭所を設くるを要す、殊に重量容積共に多大なる燃料即ち石炭の運搬は其しき不便を感ずるに至るべきが故に、土地の情況により之が代用品たる薪材の準備を爲す事も必要なる可し。

勞力資本共に運輸上に利する事は現今の影響を及ぼすべきは明瞭なる事實なり、然るに運輸上に於ては依然として其引繼し得べき故に假令時局の進行上時に或は事情に拘はること無からしめんも、我蚕絲業家の多大なる犧牲を極むる事の發展を疑はざるべし、斯て國威は益々輝き蚕絲業家の此際者の利益の精巧なるに勉め以て軍資の補給に缺くること無からしめんとす

二　乾燥物及排泄物

養したる體兒は直ちて乾燥器中にて乾し秤量したる後粉末とせり、今其乾燥物質及排泄物の量を示せば次の如し。

第一表

	生　糞(瓦)	乾燥物(瓦)	排泄物(乾量瓦)
甲	二四八・〇五二	二八・五八二	—
乙	同	二七・六五六	〇・九一八
丙	同	二六・三四三	二・二二一
丁	同	二六・一六六	二・三四九

三　有機分及粗灰分

右の粉末を更に氣中に放置して風乾の狀態となし、其一定量を取り有機分及灰分を檢して左の數を得たり。

第二表

	有機分 乾物百分中	有機分 全量收算(瓦)	粗灰分 乾物百分中	粗灰分 全量收算(瓦)
甲	九・〇一五九	二五・七六九	九・八四一	二・八一三
乙	八九・五五九	二四・七六九	一〇・四四一	二・八八七
丙	八九・二九九	二三・六五六	一〇・二〇一	二・六八七
丁	八九・二五七	二三・三五五	一〇・七四三	二・八一一

四　窒素及蛋白質

全窒素。原料の一定量を取りケルダール法により全窒素と定量す、即之に强硫酸を注ぎ無水硫酸銅及硫酸加里を加へ有機物を酸化せしめ、蒸溜して發するアンモニアを規定硫酸に吸收し苛性曹達液にて滴定せり。

粗蛋白質。前法により得たる全窒素に係數六・二五を乘じて粗蛋白質の量とせり。

蛋白質。蛋白質はスツーター法によりて定量す、其法原料の一定量を取り、蒸溜水を加へ水浴上に暫く煮沸し明礬の濃溶液を注ぎ、次に水酸銅を加へよく攪拌冷却せしむるときは溶解性蛋白質は悉く沈澱するを以て之を濾過し、冷水にて洗滌したる殘物の窒素をケルダール法により定量し、其數に六・二五を乘じて蛋白質の量とせり。

非蛋白質窒素。全窒素の量より蛋白質窒素の量を減じて非蛋白質窒素の量を求む。

第三表　（乾燥百分中）

	全窒素	蛋白質窒素	蛋白質	粗蛋白質	蛋白質
甲	一・二四九	四・八一一	六・四三八	七〇・三〇六	三〇・〇六九
乙	一・一五八	四・九九九	六・五一九	七一・九八六	三一・二四四
丙	一・一九五九	六・二〇七	七・七四八	七四・七一九	三八・七九四
丁	一・一一〇六	六・四九七	五・六〇九	七五・六六三	四〇・六〇六

以上の數を二四八・〇五二瓦の全量に改算する時は次の如し。

第四表

	全窒素(瓦)	蛋白質窒素(瓦)	粗蛋白質(瓦)	蛋白質(瓦)
甲	三・二一五	一・三七五	一・九七六	二〇・〇九五
乙	三・一八五	一・三八三	一・八〇三	八・五九四
丙	三・一四九	一・六三五	一・九九一	八・六四四
丁	三・一六八	一・七〇〇	一・五八四	一〇・二一九
			一・二六八	八・七九八
				一〇・六二五

五　エーテル浸出物

原料の一定量を取りソックスレット裝置により、エーテルを以て浸出定量せり、其量次の如し。

第五表

	乾燥物百分中	二四八〇五二瓦に對する量(瓦)
甲	九・三九九	二・六八六
乙	九・三三九	二・九八七
丙	九・一五八	二・四一二
丁	八・七四八	二・八九九

六　結論

以上の成績により左の如く結論をなせり。

一、體兒に食料を給せずして放置するときは漸次體質を分解して體量を減ず、而して溫度高きときは其量多し、これ第一表に明かなり。

二、有機成分は無機成分よりも消耗すること速かなり、これ灰力の割合が體量の減ずるに伴ひ却つて增加することによりて知るべし（第二表參照）。

三、全窒素は體量の減少すると共に漸次其數を減ぜり、蛋白質は却つて增加せり、これ甚だ奇異なる現象にして頗る說明に苦しむ、暫く說明を缺ぐ、第五表によりて其量は時間よりも溫度に關係なるはエーテル浸出物にして其量の多きは溫度にて二十四時間經過せしものと之を見るに、溫度十六度にて二十四時間經過せしものと比較すに、溫度に於て廿四時間を經過したる三者に於ては二十度のものは二十四度のものよりも〇・一八一%多く、又二十四度のものは二十度のものよりも〇・四一%多く、其體量を消耗せり、これにより體內に於ける物質の消耗は溫度に伴ひて增加することを知るべし。

白雪樓畫

聽水左烏拉圃の峰に移し植ふて
朝日に匂ふ折り今まつすな

柞蠶絲に就て

大日本蠶絲會
技師委員　農學士　中村彦

第五章　結論…柞蠶絲の輸入稅率增減

柞蠶絲の輸入稅率增減問題を解決するには左の三點に就き調査する必要なることは已に緒言に於て述べたり。

一柞蠶絲の輸入額は絹評の視線如何に影響を受けたるや。

二絹織絹紬、玉糸及生絲は柞蠶絲の輸入只乘如何なる影響を受けたるや。

三柞蠶は本邦に於て飼育するも收支相償はざるや。

而して余が調査の結果は上來述ふるが如しと雖も尚其要を摘錄すれば左の如し。

一現に清國より外國へ輸出すると柞蠶絲の數量は二百萬斤に達し見込あれとも、其の以上は急速需要に應ずる能はざるの實況なれば從來本邦に輸入せる狀況に徴しても其の價格の騰貴するは勿論、本邦輸入額の增進の程度も略ぼ察知するに難からず。

二柞蠶絲輸入の爲玉糸は改良せられ、且其生產額は減少すること無く、生絲は外國輸出額增進の爲等の影響を蒙らず、寧ろ紡績絹絲は生產額に幾分の減少を來し價格亦多少低落の傾向あれども、柞蠶絲を消費すること甚だ多き地方に於て尚需要の減少せざるを見れは其原因は單に柞蠶絲輸入の結果のみに歸し難し、且や伊勢崎機業組合の如き外國製紡績絹絲をも使用するものあるに於ては我絹紡績業者に對しては今一層業務の上に於て發奮勉勵せむことを望まざるを得ず。

三柞蠶の飼育は長野、茨城兩縣下に於ける實況に據り相應の收益ある者なるを聞き得るのみならず、今後當局者の奬勵其の宜しきを得るに於ては本邦各地に其の飼育の盛況を得る見込あり。

思ふに絹紡績絹織業の如き內地に求め易き原料を使用する工業は國家の爲存續すべきむるの必要なるは勿論益隆盛ならしめざるべからざるを以て、我絹紡績業者に對しては大に奮勵すべきなり。

當なりと認む、加之內地柞蠶飼育の發達を催進するとは目下の急務なるに依り、余は此際調査報告より現行柞蠶絲輸入稅率を幾分か高むるは敢て不當にあらざるべしと信ずる者なり。

柞蠶絲は輸入稅表第一種有稅品にして其第十三類（布帛、絲糸及同材料）第三に屬し從量稅毎百斤參拾圓五拾錢參厘稅率は一割五分なり、而して第十三類第三の中に就き柞蠶絲に近似せるものにして稅率最高のものは刺繍絹布及刺繍綿布二割五分。

柞蠶絲を以て純成せる絹紬は二割なり、左に輸入稅表中稅率二割五分以上のものを摘記して參考に資す。

大砲、小銃、拳銃、刀劍
鉄彈、裝藥、其他陸軍品　二割五分

蒸骨器及同部分品	二五	第一類（兵器、弾薬、火藥、化學品及醫療機械）
鐵鋼及同附屬品	二五	
製中等計、同製、及同附屬品	二五	
甲　金製及自金製のもの	三〇	第二類（飲食物）
乙　銀製及其他各種	二五	
糖菓類	三〇	
茶	二五	
物品中、組製及組入のもの	二五	第三類（衣服及附屬品）
燃料、甲、組製及組入のもの	二五	
絹子、甲、金銀絲糸玉入のもの	三〇	
乙、組製及組入のもの	三〇	
帶飾、甲、組製及組入のもの	二五	
屑衣、甲、毛製、刺繍、組製及組入のもの	二五	
足袋（ヰヤス製のもの）乙、組製及び組入のもの	二五	
飾紐、組紐の書籍類に用ゐるもの	二五	
甲、金製及自金製のもの	三〇	
乙、其他各種	二五	
絃飾料品、甲、金製及金銀製及組入のもの	三〇	
乙、組製及組入のもの	二五	
肌衣、上下（ヰヤス製のもの）甲、組製及組入のもの	二五	
雨衣、甲、組製及組入のもの	二五	
其他各種の衣服及附屬品、甲、組製及組入のもの	二五	
酒（アルコール）	二五、〇	第四類（藥材、化學藥及製藥）
玻璃、鏡	二五	第六類（硝子及硝子製品）
羽毛各種	二五	第八類（鳥羽、皮毛、介類）
毛、皮	三五	第九類（甲類）
金銀器、製造（張付さるもの）	二五	
鍍金銀器（同上）	二五	
集雜帖（寫眞用及飾切替帖用のもの）	二五	第十一類（紙及文具）
繪筆、甲、金製及自金製のもの	三〇	
筆墨、甲、金製及自金製のもの	二五	第十二類（絃樂）
氷砂糖	二五	
刺繍絹布及刺繍綿布	二五	第十三類（布帛、絲糸及同材料）
綿帽、甲、組製及組入のもの	二五	
手巾、乙、組製及レース製のもの	二五	
襟衣、甲、組製及組入のもの	二五	
旅裝、甲、組入のもの	二五	
其他各種の布帛製品、甲、組製及組入のもの	二五	
第十四類　燈臺及其他	二五	
第十五類　消類に總て	二五 以上	
漆器及同附屬品	二五	
乘車、自轉車及同部分品	二五	
鞍	三〇	
鐙	三〇	
笛、花	二五	
オルゴール（製造に携はるもの）其他の遊戲具	二五	
假製金銀細貨類	三〇	
油類、水彩、石板墨、著色、石板鉛、寫眞墨法帖、其他別項に掲げざる各種の書畫類	二五	
骨　鯨（各種）	三五	第十六類（雜品）
貴石及寶珠	三〇	
貴石及寶珠（假製のもの）	二五	
馬具	二五	
吸煙器具（同所吸煙具を除）	三〇	
石類肉質類其他形刻したるもの	二五	
化粧具類	二五	

香水、香油、浣劑、染五色各種砂及薬香類	三〇
鞣甲製品	二五
製具（各種）	二五
金類　甲鞣及粗入のもの	二五
紙及其他製品	二五

（完）

桑畑を拔ける乙女の唄歌かな　櫛秋

日露の實力と戰爭の終局

大日本蠶絲會
技師　委員　橋本重兵衛

今回日露協商に於て露國の採た所は極めて奸矯なる手段であつて自國の危大なるを恃んで日本を蔑視するの甚しかつたかは其總ての行動に於て明瞭である、之に對する日本の態度は至つて慎重温順なるものであつた、然るに露國は陽に平和を口にして陰に滿洲の防備を固うした、交渉の局を結ばざるに之が破綻を見たのも亦數の然らじひる所であらう、元來佛國は獨逸を恐るゝが爲めに露國と相提携するの老拙手段を取り專ら獨逸の勢權を壓するに努めたのである、然るに此等兩國の夾間に立つた獨逸は此聚の間知すべからざるを見て露の原因は露をして自個實力何ら忘却せしむるに自尊の念を養成せしむる媒をなした、從て露國が何等の實力なきを覺るに佛、獨兩國に敬意を拂はるるか總ての方面に於て虚飾を事とし威容を示さねばならぬかつたのも無理もないのであるなり、茲に露國が虚飾せる點に就いて漸次調べて見やう。

全世界に對する露國の面積人口

	面積	人口	一方理に對する人口
全世界	五一二七〇〇〇平方哩	一六二九〇〇〇〇〇人	三一八三三

露國全土は世界面積に比し六分の一强に當つて居り、人口は世界に對し十三五分の一に過ぎず。

日本の面積人口

	面積	人口	一方哩に對する人口
日本	一六一一九八方哩	四六六五六四〇三四人	二九一三四〇

日本は露國に對し面積は五十四分の一弱、人口は露國は日本に對し二倍五分四厘である。

日露富力の比較（一九九九年マルボール氏調査）

	富力	一人に對する富力
露國	五〇八七〇〇〇〇〇〇〇〇圓	四二五六〇
日本	一三六二〇〇〇〇〇〇〇圓	二九〇〇〇

露國は外國市場に於て公債を募集するにより大に表面を張り居るから富力も多分に見積つてあらふ、之れに反し日本は最も低い程度に見積つてある樣である、余は現今之れが調査を左しつゝあるが尠くとも二百億圓以上であるとは疑ひを入れざる所である。

日露現在公債高

		公債高	一人に對する公債高
日本	內債	七五二五六八九二〇〇〇圓	七、八四八四〇〇〇〇
	外債（英國）	九七六三〇〇〇〇〇〇〇〇圓	二七八六四〇〇〇〇〇
露國	內債	六五四九三八九二〇〇〇〇〇〇〇〇圓	一一五八〇〇〇〇〇〇
	外債（佛國より自耳機より英國より）		三、九四〇、四四〇〇〇〇〇

日本公債は重もに內國債で僅かに外債は七分の一弱である露國は內債は二分の一で且つ此等は重もに正貨を蓄つたものでなくて前年に於ける戰役賞與の如きものが其多數を占めて居るやうである。

日露歲出國債及び輸出入比較

	歲出額	國債高	輸出入高
日本	二五四八三〇〇〇〇圓	五四四二二二九六〇〇〇〇圓	一六〇六四
露國	七五二五九〇〇〇〇	一六〇七七八四八四〇〇〇〇	一〇六四
	二一九二一二七一九九七〇〇〇〇	二一九二一二七一九九七〇〇〇〇	

日本は一分頃に對し歲出は五倍四十二錢で國債八十六倍〇七錢である、然して輸出入高に於ては日本は十二倍九十二錢露國は十倍六十四錢である、露國は其全體に於て農產を主とする國であるから、我國は日清戰爭以來商工業の發達に伴ひ、自己露國に對し戰勝を得ることを知らなかつたが、自己露國は日露戰爭に勝ち得る國には勝つて兜の緒を締め一層一層商工業の發達航海業擴張等に力を注ぎ、東洋に於ける前人未到の境域に於て今日迄に於ける貿易上の進歩は勿論に十倍以上の進歩を遂げ、日本は之れに比較して見ると世界より通じて加奈陀とつて遜歩の有樣である、然るに露國は第一位の位置に居る、何となれば露國は反つて遜歩の有樣である、然れども今日は倍すること能はざる程度に達して居る、自己は最も甚しき國である、

ることを得るであらう。

露國經常費及び臨時費

	經常費	臨時費	計
	一、八八九、四三〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一、二、八九六、六六〇、〇〇〇

露國は數年前より歳出額は歳入より增加すること年々二三億圓を下つたことはない、臨時費金は外國から借入れた公債であらう、然るに年々歳入が歳出に剩餘すること左の如くである。

一八九五年	一八九六年	一八九七年	一八九八年	一八九九年	一九〇〇年
一、三三三、〇〇〇、〇〇〇	一、三七一、〇〇〇、〇〇〇	一、四三四、〇〇〇、〇〇〇	一、四〇一、〇〇〇、〇〇〇	一、三五二、〇〇〇、〇〇〇	一、三七三、〇〇〇、〇〇〇
一、八九五、〇〇〇、〇〇〇	一、八九六、〇〇〇、〇〇〇	一、八九七、〇〇〇、〇〇〇	一、八九八、〇〇〇、〇〇〇	一、八九九、〇〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇
四、三三三、〇〇〇、〇〇〇	三、四七一、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、五〇一、〇〇〇、〇〇〇	三、三五二、〇〇〇、〇〇〇	三、三七三、〇〇〇、〇〇〇

端時費として收入した所のものが年々積算に剩餘があると云ふのは甚だ疑はしいことである、實際之れ有るものとしたならば僅か十年間にして二十四億五千五百萬留の剩餘金を今日露西亞は藏して居る譯である。

露國金採塩高(露國報告と北米合衆國調査)

	露國報告	北米合衆國調査の考
一九〇二年	一、五九九、二七四、〇〇〇	一、五九七、一五〇、〇〇〇
同	一、八〇五、五〇〇、〇〇〇	二、二五三、〇〇〇、〇〇〇
七、八五七、七四四	同	七、四三八、五〇〇

露國の報告と北米合衆國の調査とは同年に於けるものが斯くの如く非常なる差を生じて居る、之を以て見れば南國の報告調査共に疑惑の念を抱かしむる、敢に北米合衆國の調査を確實なるものとして推すことが出來なければ露國の報告も亦大に眞を措く能はざるものがある、然らば如何にして判斷すべきか露國の虛飾此語羽らく斯かる場合に用ゆべき最も適當なる文字であらう。

露國正貨準備金

	普國官報掲載露國現在額	倫敦通信	合計
八六年	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、七一五、〇〇〇、〇〇〇	一、二五三、五〇〇、〇〇〇
八七年	一、二一五、〇〇〇、〇〇〇	一、五九〇、〇〇〇、〇〇〇	一、四七〇、〇〇〇、〇〇〇
八八年	九二七、〇〇〇、〇〇〇	一、五三〇、〇〇〇、〇〇〇	一、四六一、〇〇〇、〇〇〇
八九年	八〇七、〇〇〇、〇〇〇	一、五三〇、〇〇〇、〇〇〇	一、四九九、〇〇〇、〇〇〇
九〇年	八三〇、〇〇〇、〇〇〇	一、五三〇、〇〇〇、〇〇〇	一、四五六、〇〇〇、〇〇〇
九一年	九二七、〇〇〇、〇〇〇	六九九、〇〇〇、〇〇〇	一、四二六、〇〇〇、〇〇〇
九二年	七三七、〇〇〇、〇〇〇	七三三、〇〇〇、〇〇〇	一、四七〇、〇〇〇、〇〇〇
九三年	一、〇八〇、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇四、〇〇〇、〇〇〇	一、四四七、〇〇〇、〇〇〇

露國の正貨準備金は一九九六年より一九〇三年に至るの間は十二億留より八億留の間を往來して居る、露國に流通して居る所の金額は三千七百五十萬留より七億八千七百萬留の間を往來して居る。

露國は政府の報告は右等の數字より遙に多くの數字を發表して信用を置き難しとせられ、此等の數字は小棒火決して信用を置き難しとせられ、然るに虛文字は一年に到る、底永遠に生存することは出來ない、此中一九〇二年に於て露國が經營せる西比利亞鐵道の敷設、滿州の備、遼東の要塞等に對して費やしたる費用は實に莫大なる程の防備の費大なる金が投じられて居るにも拘らず、此等の虛文字は一切の事實に於ける露西亞帝國の正

銀行及び國庫に收容せられたる剩餘金は何なる金であらふ乎、抑も之は如何に甚だしひる程の金額を藏したら人の鑑となりて肯すること能はざること、は前述の如くである、何の金であらふ乎、埃塩の報告も極めて異なる者である、次ぎに十二月末に於ける歐洲各國の調査は甚だ相違の如くである、次ぎに十二月末に於ける露

に反し露國農產は三十四年の收穫高よりすること右四種にて二億二千布度である、爲めに一地方に於ては價値と來し餓死するものも多かりしが、昨年は一層の大不作であつた、若し余の云ふが如く農產物の豐凶を以て戰役の成敗を期するものとせば、加ふるに我が軍中にあることを斷言する。

日露戰爭の終局

今回日露間の戰地に出兵するのに日本は東京より旅順迄千哩内外で佐世保から五百六十哩に過ぎず、然るに露國は「セントピータスブルグ」より鐵道に依つて四千餘哩で其鐵道もで單線で且つ石炭に不足を生じ其運搬不完全であると云ふことである、露國に於ては一八一二年「モスコー」に於て初世「ナポレオン」を苦しめた如く、今回も日本軍を此窮地に立たしめんことを豫期して居るとのことであるが、既に已に自ら其權を握んで糧食の運搬に窮し、或は「バイカル」湖の鐵道殆落等の慘狀を見て居る、實に噴飯すべきの至りであらふ、而して露國が敗れた曉には之が壓制に困しみつゝある芬蘭土人は其獨立を企つるであらふ、既に在米の此民族の一部は日本に同情を寄せつゝあるではないか、又怨恨骨に徹し常に相反目しつゝある「アーミニヤ」人及び土其古人は忽然劍を揮つて起つであらふ、そこで今回の戰爭は長年月に亘るか若しくは短日月に局を結ぶかと云ふ問題に付いて些か述べやう。

交戰國	開始年月	終局年月	交戰年月	佛英	土	一八二八、四	一八二九、九
佛英	一七九二、二	一八一四、五	一年四ヶ月	佛蘭	普	一八三〇、一一	一八三〇、一一
佛蘭	一七九九、一	一八〇七、一	一年十一ヶ月	佛普	墨	一八四〇、八	一八四二、八
佛普	一八〇五、八	一八〇七、六	一年十一ヶ月	英清	英	一八四〇、五	一八四七、九
佛墨	一八〇五、九	一八〇七、一二	四ヶ月	墨	墨	一八四八、三	一八四八、九
佛墨	一八〇六、六	一八〇七、一二	四ヶ月	墨	伊	一八五三、一〇	一八五六、二
佛墨	一八〇九、四	一八一四、四	五年十一ヶ月	墨	土	一八五四、三	一八五六、二
佛墨	一八一二、六	一八一四、四	一年十一ヶ月	佛墨	土	一八五九、四	一八六〇、八
佛墨	一八一三、一	一八一四、四	一年十一ヶ月	佛墨	墨	一八五九、六	一八六〇、一〇
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	英佛清	英	一八六一、一	一八六五、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	米國南北	米	一八六四、一	一八六四、九
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨國境下技	墨	一八六五、五	一八六五、五
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八六六、六	一八六六、七
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八六六、六	一八六七、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八七〇、七	一八七一、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八七一、三	一八七八、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八七八、一二	一八七九、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八七九、一	一八七九、四
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八七九、四	一八七九、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八七九、一二	一八八〇、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八〇、一	一八八〇、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八〇、六	一八八〇、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八〇、一二	一八八一、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八一、一	一八八一、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八一、六	一八八一、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八一、一二	一八八二、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八二、一	一八八二、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八二、六	一八八二、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八二、一二	一八八三、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八三、一	一八八三、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八三、六	一八八三、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八三、一二	一八八四、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八四、一	一八八四、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八四、六	一八八四、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八四、一二	一八八五、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八五、一	一八八五、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八五、六	一八八五、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八五、一二	一八八六、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八六、一	一八八六、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八六、六	一八八六、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八六、一二	一八八七、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八七、一	一八八七、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八七、六	一八八七、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八七、一二	一八八八、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八八、一	一八八八、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八八、六	一八八八、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八八、一二	一八八九、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八九、一	一八八九、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八九、六	一八八九、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八八九、一二	一八九〇、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九〇、一	一八九〇、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九〇、六	一八九〇、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九〇、一二	一八九一、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九一、一	一八九一、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九一、六	一八九一、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九一、一二	一八九二、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九二、一	一八九二、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九二、六	一八九二、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九二、一二	一八九三、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九三、一	一八九三、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九三、六	一八九三、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九三、一二	一八九四、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九四、一	一八九四、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九四、六	一八九四、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九四、一二	一八九五、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九五、一	一八九五、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九五、六	一八九五、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九五、一二	一八九六、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九六、一	一八九六、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九六、六	一八九六、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九六、一二	一八九七、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九七、一	一八九七、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九七、六	一八九七、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九七、一二	一八九八、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九八、一	一八九八、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九八、六	一八九八、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九八、一二	一八九九、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九九、一	一八九九、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九九、六	一八九九、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一八九九、一二	一九〇〇、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇〇、一	一九〇〇、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇〇、六	一九〇〇、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇〇、一二	一九〇一、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇一、一	一九〇一、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇一、六	一九〇一、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇一、一二	一九〇二、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇二、一	一九〇二、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇二、六	一九〇二、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇二、一二	一九〇三、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇三、一	一九〇三、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇三、六	一九〇三、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇三、一二	一九〇四、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇四、一	一九〇四、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇四、六	一九〇四、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇四、一二	一九〇五、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇五、一	一九〇五、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇五、六	一九〇五、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇五、一二	一九〇六、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇六、一	一九〇六、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇六、六	一九〇六、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇六、一二	一九〇七、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇七、一	一九〇七、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇七、六	一九〇七、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇七、一二	一九〇八、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇八、一	一九〇八、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇八、六	一九〇八、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇八、一二	一九〇九、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇九、一	一九〇九、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇九、六	一九〇九、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九〇九、一二	一九一〇、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一〇、一	一九一〇、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一〇、六	一九一〇、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一〇、一二	一九一一、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一一、一	一九一一、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一一、六	一九一一、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一一、一二	一九一二、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一二、一	一九一二、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一二、六	一九一二、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一二、一二	一九一三、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一三、一	一九一三、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一三、六	一九一三、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一三、一二	一九一四、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一四、一	一九一四、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一四、六	一九一四、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一四、一二	一九一五、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一五、一	一九一五、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一五、六	一九一五、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一五、一二	一九一六、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一六、一	一九一六、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一六、六	一九一六、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一六、一二	一九一七、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一七、一	一九一七、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一七、六	一九一七、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一七、一二	一九一八、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一八、一	一九一八、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一八、六	一九一八、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一八、一二	一九一九、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一九、一	一九一九、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一九、六	一九一九、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九一九、一二	一九二〇、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二〇、一	一九二〇、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二〇、六	一九二〇、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二〇、一二	一九二一、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二一、一	一九二一、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二一、六	一九二一、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二一、一二	一九二二、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二二、一	一九二二、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二二、六	一九二二、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二二、一二	一九二三、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二三、一	一九二三、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二三、六	一九二三、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二三、一二	一九二四、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二四、一	一九二四、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二四、六	一九二四、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二四、一二	一九二五、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二五、一	一九二五、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二五、六	一九二五、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二五、一二	一九二六、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二六、一	一九二六、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二六、六	一九二六、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二六、一二	一九二七、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二七、一	一九二七、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二七、六	一九二七、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二七、一二	一九二八、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二八、一	一九二八、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二八、六	一九二八、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二八、一二	一九二九、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二九、一	一九二九、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二九、六	一九二九、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九二九、一二	一九三〇、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三〇、一	一九三〇、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三〇、六	一九三〇、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三〇、一二	一九三一、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三一、一	一九三一、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三一、六	一九三一、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三一、一二	一九三二、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三二、一	一九三二、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三二、六	一九三二、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三二、一二	一九三三、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三三、一	一九三三、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三三、六	一九三三、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三三、一二	一九三四、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三四、一	一九三四、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三四、六	一九三四、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三四、一二	一九三五、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三五、一	一九三五、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三五、六	一九三五、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三五、一二	一九三六、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三六、一	一九三六、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三六、六	一九三六、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三六、一二	一九三七、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三七、一	一九三七、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三七、六	一九三七、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三七、一二	一九三八、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三八、一	一九三八、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三八、六	一九三八、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三八、一二	一九三九、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三九、一	一九三九、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三九、六	一九三九、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九三九、一二	一九四〇、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四〇、一	一九四〇、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四〇、六	一九四〇、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四〇、一二	一九四一、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四一、一	一九四一、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四一、六	一九四一、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四一、一二	一九四二、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四二、一	一九四二、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四二、六	一九四二、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四二、一二	一九四三、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四三、一	一九四三、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四三、六	一九四三、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四三、一二	一九四四、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四四、一	一九四四、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四四、六	一九四四、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四四、一二	一九四五、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四五、一	一九四五、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四五、六	一九四五、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四五、一二	一九四六、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四六、一	一九四六、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四六、六	一九四六、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四六、一二	一九四七、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四七、一	一九四七、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四七、六	一九四七、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四七、一二	一九四八、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四八、一	一九四八、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四八、六	一九四八、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四八、一二	一九四九、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四九、一	一九四九、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四九、六	一九四九、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九四九、一二	一九五〇、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九五〇、一	一九五〇、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九五〇、六	一九五〇、一二
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九五〇、一二	一九五一、一
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九五一、一	一九五一、六
佛墨	一八一五、三	一八一五、七	三ヶ月	墨	墨	一九五一、六	一九五一、一二
佛

製絲機械の發明

（大日本蠶絲會第十三回大集會に於て）

大日本蠶絲會
技藝委員　岡中文助

私は養蚕に自働式なる製絲機械を發明致しまして先年既に本會々報にて御披露致し置きましたが、此の機械は製造に随分手が掛りまして安くつきませぬ爲めに未だ充分に擴ろまる場合に至りませぬ、然るに同じく自働式にして、而も安価にして且つ容易に良絲を製し得る機械を發明致しまして本年二月二十四日に特許を得たのであります。

此製絲機械は今此の庭園にて絲を繰て居ります蟻製の「ケンネル」式六口繰り足踏機械にして、其甕部を前面に設けて手振器に類止甕止器を附し、其の緒変器には二重偏心装置となし、又繰絲部には長方形の繰箱に分熱装置を設け、加ふるに厳新なる接緒器及び糸類除器を装附したる機械にして、從來製絲家の苦辛せらるる、製絲の改良、製費の節減、工女の養成等總ての困難を排除して精美なる生絲を容易迅速に繰製し其經費を減省し得るものであります。今其效用の概略を説明いたします。

此機械の構造にわたりまして甕部を前面に設けたるは、工女繰絲工程中既に繰上げたる絲の出來はへ即ち類節の有無、色澤の良否、ニュー、ルンの同不同等を繰絲なしつゝ自らこれに注目する點に於て大に便利であつて、又た絲の切斷したる時は甕より絲を探り出して機合はすに頗る容易でありまして、從來の製絲機械は總て此の甕部を後ろに設けてあるがゆへに、工女が自分に製出したる絲を見ることなく背後の甕に揚げてしまうがゆへ、類節の揚る時又は絲の切れたる時は一々後部に振り向いて其仕事をしなければならぬといふ大いなる不便があります、元來何業にても職工が製作する品物の出來ばえを見ずして仕上ぐるといふのは甚だ至難のことで到底良い品の出來ふ道理がありませぬ事と思ひます、故に私は此製絲業にしても前面に甕を置き、工女自ら製品を注目しつゝ繰絲致しますやうにいたしまして、從來の如く餘計な機械費と、場所の廣き事を要せぬ機械になりますゆへ、時來ひます。

甕部を前面に設ける事に改良したほうがよかろうと思ひます。

又繰り鍋は從來の鍋にては四口繰、六口繰、は不便なるがゆへ、之に代ふるに長方形の浸き繰箱を用ゆるのでありまして其構造は繰箱の底部を中程まで上げ底にして、此の裏面に瓔板の仕切りを以て三室に分離して各室に火氣の通ずるよう火熱孔を設け、其の火氣の直接と間接とに依りて各温度に十度乃至十五度計りの熱度を分かちて求緒湯及繰湯絲を自在に適度を得せしむるの装置であります。又此湯を沸すには長方形の一個の油入に二個の「ランプ」を左右に並列して繰箱の下部に置き、常に一定の温度を以て繰絲するを得るので、元來（蒸氣使用の分は別として）火熱にて湯を沸す時は炭を繞きたる時は忽ち火氣强く、又燃消するに随ひ弱くなりて其温度を一定する事は至難にして、之が爲絲の色澤に悪らを来たすのみな

らず炭を繞ぐ等の手數を要するのである、此度發明したる器械は右等の煩を除き、最初求緒する時は「ランプ」を手前の仕切下たに据置き、假令は温度百七八十度迄になして既に求緒せば少しく冷湯を排除し水を注入して、下部の「ランプ」を繰箱の仕切内に差向け其湯を適度になして繰絲するときは、繰箱の手前に纏め置きたる繭の部分の温度は約十四五度は底温なるがゆへ其繭を蒸過ぎる事がない、故に絲の色澤に影響する事なく、又ルボ杯、揚る憂ひはなく、而して前面に設け付けは「工女」が前面に置附額又は細びらを生じ、殊に機度の不揃を來すが故、之れを防ぐ爲めに工女養成の期間は實に二三ヶ年を費さざれば良絲を製する事が出來ません、本發明の接緒器は列物を銀利にし第一回轉の際列物を長く深く切込み之れに絲の接觸する時は忽ち絲を切り取り、且つ切り口極めて短くして附け額の生することなく、絲を添附するに容易且つ神速にして決して工女の熟練を要せず、假令は十二三歳の少女と雖も容易に四口又は六口繰に、絲を繰る事の出來得るのみならず、機度を均一ならしむる事も又容易であります、實に接緒器の效用は著大なるものにして元と接緒器を初めて發明したのは、千八百七十二年（明治六年）伊太利亞の「ピエモンテ」州「ビチローロ」と云ふ所の某製絲家の發明でありましたのを、私は明治十一年伊太利亞の「ロンバルデ」州「ボッカショネ」の「シーバル」會社の製絲場に於て試驗中でありましたのを見て、同十二年諸朝の後ち此接緒器のことを佐々木長淳先生に亘繰に説明をしましたれば、同先生は更に新考案を以て之に絲切具を備へたる接緒器を座繰器械に應用せられまして、我國にて接緒器を用ひたるは之が嚆矢であります、其後私が再び佛蘭西に行きし時同國に於ては「レランガメール」氏が伊國式より更らに改良を加へて使用するに至りましたゆへ、私は明治十九年佛國に於て四口繰の接緒器を一組求めて持歸りて之が試驗を致しましたるに、如何にも集緒孔の大きくして額の上る事が夥多にして且つ絲切列物と節扱器を發明して裝附し以ての明治二十二年に於いて特許を得て廣く一般に擴張を圖りました、其の當時には未だ製絲家に於ても重に二口繰にて足れりとして三口四口繰は好みませんでした、故に接緒器には極冷淡であつて漸く二十七八年の頃より四口繰の機械も流行し來りしため接緒器を用ゆる事になり、其後ち三三の發明も出來ましたが未だ完全なるものは見ることが出來なかつた、私は我國の製絲家には是非此の接緒器を利用せねば到底良絲を製する事及經費を節減する事は出來ぬと思ひます、前に絲を製する事及經費を節減する事は養成期間に二年半三年を要し、此養成中には假令下等の工女と雖も利益となるべき絲は出來ず、漸くにして一人前の工女となるべき絲は出來ず、漸くにして一人前の工女となるまでは僅かに一年半乃至二年半の間で此の工女は苦辛して貴用を注ぎ込まれたる絲を顧みず、捨てて行方知れずくなる事なれば、到底此接緒器に依らざれば利益を收むる事なかるべしと確く信じます、從前私が此接緒器につき苦心せし當時熱心に賛成せられたるは岩瀬君にして今當講習所

に居られますが、どうしても我々は責任を以て此接緒器を利用して製絲家の利益を收むる事に致したいと思ふのであります。

又此額止器ですが從來の節扱置は一つの繭の絲に額の付き揚がる時に其絲は悉く切斷し、其切斷する毎に極めて小なる孔に一ヶ絲を通すの煩勞が多い、此發明は本器を扇面形にして中央の裏面を平坦に表面へ斜めに摺り却し、扇面の間隙に繭絲一筋毎に狹まり、繰上げられつゝ輪額は摺れほどけ、揚り額（ダル）額は自ら除け去り、且つ鍋際の末をも除さず悉く繰上るがゆへ、節は無いして層絲生ずず絲量多くさい得せしむるのである、故に接緒器を用ふると共に必ず此額除器を附する必要がある。

「ケンネル」器は輕金製の絲導車にして上中下の三個を附し、各技金には二個又は數個の孔を設けて之を差しかへ、其勾配を自在に適度ならしむる裝置にして、微數を充分に掛けるゝふになれば故に絲の捲合も圓滑に密着して、强力伸度も充分ならしむることにしてあります。

此額止器裝置は從來の手振杆の絲釣を用ひず更に碎新なる額止器の中央に圓形孔を設け、之を丸捧なる手杆に串挿して仰伏する如くになして裝附し、又甕の眞下に甕止杆を設け、之れに丁字形の技杆を附し額止器と連絡せしめたるものにして、額節の揚るときは此額止器に止まると同時に甕の絲に引かるゝが故に、額止器は向ふに伏しつゝ下部なる丁字形の技杆にて甕止杆を前に引けば、杆は甕に接して直ちに其甕一個丈けの回轉を止めるのである、故に絲の切斷する事はありません、然れども若し絲の切斷する事あるも、ケンネルの上にて切斷するがゆへに、其繰りを掛け直すが如き煩勞なく、時間を要せずして容易に絲を繰き合すを得るのであります。

又給交器は特殊なる二重偏心の裝置でありまして、給交の整齊が適度で、且つ絲の甕上に於て其の兩端の相違ざるよゝなるがゆへに、大甕再繰のとき絲の切斷する事が少ない、殊に絲を探し出すに容易であるから時間を要せず又層絲を生することが極めて少ないのです。

而して絲壜回轉の運速は替車に依りて自在に取替へるよゝになつてをります、即ち替車の徑は二寸五分、三寸、三寸五分の三個にして大摺車の徑壹尺四寸なるがゆへに、甕の回轉數は一分時間に二百八拾四乃至四百二三十回迄となる。即ち普通の繭にて一時間に壹升乃至一升五合迄容易に繰製し得るが故に、一日に一斗五升を製し得らるである。

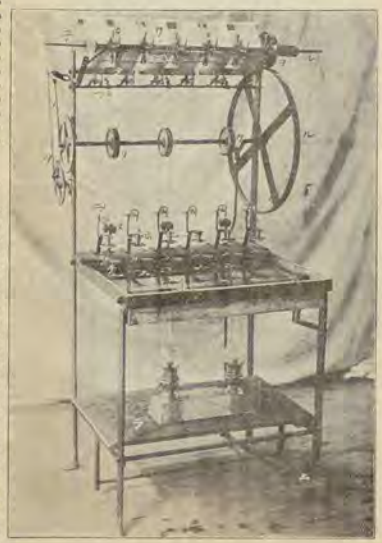
本機は總て金屬製にして四口繰六口繰の二種でありまして、其高さは四尺横幅は一尺二寸、前幅は四口繰にて總幅壹尺八寸、六口繰にて二尺四寸、極めて堅牢にして永く使用に堪へ且つ機械の簡易にして据付に手數を要せず、容積小にして場所の狹隘を厭はず、又足踏にて極輕く運轉するの構造なれば十臺又は二十臺に連續して手廻し又は水車にて運轉するも容易である、殊に夜業をするに當りては絲の派付容易なるが故に其便利にして働きの敏活なることは本機の特色とする處でありまして、若し之が軍器であるなれば彼の水電驅逐艦とも云ふべきものであらうかと思ひます。

我が製絲軍は近來大に發達致しまして世界各國より重要視せらるゝに至りましたのは實に我が國の一大事であります、彼の佛國の製絲軍は去る明治二十五年までに既に敗軍せんとしたるも政府の保護奬勵金を以て漸くに防禦なしつゝある狀態であります、しかして、彼の露軍の旅順港防禦と等しく、到底勝算の無なく、明治四十一年奬勵金の滿期と共に全敗するは豫期すべきである、又伊太利亞の生絲は未だ盛んに進軍なしつゝあるも

附圖器械名稱符號

（イ）繰　箱　（ロ）任切板
（ハ）絲　鈎　（ニ）排水栓
（ホ）揉緒器　（ヘ）回轉刃
（ト）絲　孔　（チ）額除器
（リ）溝　車　（ヌ）小溝車
（ル）大摺車　（ヲ）小摺車
（ワ）絲　篋　（カ）額止器
（ヨ）甕止器　（タ）甕止杆
（レ）手振杆
（ソ）（ツ）二重偏心給交裝置
（ヲ）絲受孔　（ラ）火鉢臺
（ム）踏　板　（ウ）回曲肱
（一）（二）（三）ケンネルの絲導車

彼は近來我が生絲と競爭する事は到底及ばざる所なりと揚言すると雖も、去れは我が領域に侵入してあるか決して然らず如何となれば驚國との戰爭大勝利を得終局を告げたる曉きに



は、我が生絲と清國生絲とは同盟軍を作り我が製絲家は進んで清國生絲の改良を圖り、以て歐米各國に對し大に國威を發揚せんことを今より計畫せねばならぬことと思ひます、殊に

今日の時局に於ては至極當面の問題にして、我が國の製品の多額なる輸出を多額の輸入を要する原料品の輸入を多額ならしめ、其の結果は我が國の貿易の不利を來すことは、一般に認めらるる所であります。

於ては沉寂の最も甚しき時は二三ヶ月間休業せざる可らざるが故に、毎年秋業なるに拘はらず工女を養ひ相當の支給を為さざるを可らざるに非れば休業中と雖も尚ほ工女の雇傭を為すの困難なるも顧みず雇傭期間を基故に毎年工女の募集をなさざるを可らざる

工女の勤續年限に就いて本調査員の蒐集したる統計に依れば左の如し。

長野縣二〇五の工場二三六二〇の職工に就いては

勤續年數別	繭挽場方給人 男	繭挽場方給人 女	繭挽場方給人 男女	繭挽場方給人 百分比率	繭挽場方給人 男	繭挽場方給人 女	繭挽場方給人 男女	繭挽場方給人 百分比率
六ケ月未滿	三五	一五	五〇	二・五	四〇	一五	五五	二・五
一ケ年未滿	五五	四四	九九	四・四	四四	一八	六二	二・八
二ケ年未滿	四六	三五	八一	三・六	三五	一六	五一	二・三
三ケ年未滿	四〇	三〇	七〇	三・〇	三〇	一〇	四〇	二・〇
五ケ年未滿	三〇	二〇	五〇	二・〇	二〇	一〇	三〇	一・〇
五ケ年以上	四六	二〇	六六	三・〇	二〇	一〇	三〇	一・〇
計	二二六	一四〇	三六六	一〇〇	一四〇	七〇	二一〇	一〇〇

勤續年數別	職工男	職工女	職工計	百分比率
六ケ月未滿	八	三四〇	三四八	一・一
一ケ年未滿	二四	三四二	三六六	一・二
二ケ年未滿	二一	四八四	五〇五	一・六
三ケ年未滿	三四	四七八	五一二	一・七
五ケ年未滿	四二	七六三	八〇五	二・六
五ケ年以上	七一	五〇二	五七三	一・八
計	二〇〇	二一九九	三一〇九	一〇〇

其他諸縣の工場二十九に就いて調査したる處に據れば

要するに生絲工女の勤續年限は之れを紡績工女に比すれば遙かに長きが如し、因に云ふ大阪地方の紡績工場に於ては一ケ年間に職工全數以上の交替あり。

明治　年　月　日

歐米蠶絲業概觀（下）

大日本蠶絲會
技藝委員　農學士　石渡繁胤

佛國の視察を一と通濟ましてから、モンブラン山を越て伊國に行きそしたゝ、此處より「チュラン」に至る途中に養蠶の盛なる「ロンバルヂー」と云ふ所があります、此平原は一體に桑園であります。

「ロンバルヂー」の桑園　は佛國のものは多少趣を異にし葉數は少く光澤はそしる樣に見受けましたが、是は左樣の種類を選んで植殺しなとのことです、夫れから仕立方は大抵立木であります、けれども往々あります、又純然たる桑園を形くり千圓圃の畦畔に、根刈もあるものがあり、或は他の作物と混植のものもありました、然れとも何れも皆能く繁茂し立派であつて、天牛の害少く病樹も稀だのには感心しました、只所々に立枯病及小點病等を認めたに過きません、此國の學者間にも種繭用の桑は立木を可とし、絲繭用のものは根刈を良と

するとの說もあります、が定論とは言へますまい、併し概して年々刈らない方が良しと聞ふことである。

「チュラン」の生絲檢査所　を見ましたが、其規模は大きくありますせど、此處では生絲を產地に依りて分てありました、即ちロンバルヂー、「ペネシア」、「トスカン」、「シ、リア」「ピエモンテ」の五に分て居ります、そうして「ピエモンテ」と「シ、リア」を良としてある、又「トスカン」の絲には一種特有の點がある、それは大抵の絲は二本撚合すれば元の長さより短くなるものであるのに、此地方の絲に限りて元の長さとなる即ち伸度の强さのであります、又蠶の「テグス」をフロッ、ヤ、モ申しましたが、其理由は不明である、元來「テグス」は西班牙の養蠶地より多く產出し、佛、英、米諸國に輸出する其製造法は本邦にても行ふ樣に酷に漬けて延はすのである。

「パビヤ」の蠶種製造　此「パビヤ」は大學のある所て此に野村產太郎氏は齒類學の研究をして居るから夫を尋ねました、そうして一つしよに此地方の蠶種製造者を見舞つたのです、所が丁度蠶種の檢査を行つて居つた最中でありました、其檢査員は皆婦人て、蛾の運搬人二人は男てありました、家は三階て三階の室には蠶種を貯藏し、二階は則ち蛾の檢査所て、下は繰漬しをする所てありました、それて仕事の順序は第一室て漬しをする蛾を第二室に持ち運び、一方て檢査をする更に他の一方て再檢査をする、そうして有毒のものは㊀の籠に入れ、無毒のものは㊁の籠に入れ夫れから水にて洗落し、其水を乾かし種を容る器に納め第三室の貯藏所に移すのてあります、其再檢査員は十人の檢査員に對して一人の割合である

から印はゝ監督であらふと思ひます。

「モランの生絲檢査所」　は頗る大なる規模を有して居るが、此所で此の地は近來生絲の集散朝に增加し里昂を凌駕する勢となつた、それて此處では化學上の試驗も行ひ、檢査上の器械も製作する、爲に種々の新案の器械も出來ると云ふ譯てあります。

「パーナ」の蠶業講習所　に行つて見ましたが、此の所長は「ヴェルソン」氏て次長は「ファイア」氏てある、共に熱心に蠶業上の研究に從事して居る、此所は國立てあつて規模は餘り大きくはないが設備は完全の樣に見受けた、夫から此講習所の特色は各地に於ける一二箇所の蠶所の連絡をして居る事てある、此の試驗所の主任は巴黎「パストアー」の弟子を受けた人てある、「パーナ」の卒業生て「パトアー」の弟子を受けた人てある、此の種の試驗所て桑葉の爲め又は氣候の爲に影響を及ぼすなど云ふものを究むるには最も適當てある、又此各地の蠶所は蠶種製造に關する事業者に販賣し改良の資に供しつゝあるが此業改良の爲に貢獻することは尤も多かるべしと認めました。

養蠶と蠶種製造　蠶見を飼育するの方法は概して日本程は丁寧てない、養蠶室は別に之か爲に建築したものもない樣て當前の居宅を以て之に充つる、嗜點ゝ氣拔があり又溫度を給する爲に「ストーブ」がある、蠶具中重なる棚は四角な枠に針金を張つたものて、蠶座は一定しては居ないが大紙箱て其上に紙を敷くのてある。

蠶種の製造に本邦の小作制度の樣な事が行はれて居るのは面白い、それはこうするのてある、其年の初に製造者は飼育

者に蠶種を與ひ其牧繭の價格を定めて買人を約束するの方、それて若し牧繭の品質が粗惡で蠶絲を製造するよゝ出來なければは製造者の損失となるから、養蠶中は製造者は始終巡回し監督する、其牧繭は製造者の宅に持來りて蠶種を製造し顯微鏡的の檢査を行ふのである、

生絲製造の有樣も視たが、實に後塵に携ふた。

ふものは空氣中に濕氣が多い爲に繭の貯藏が簡易であるのと、繭の解舒が良く絲條が易で、そのとれて組織が極めて簡單であるから、其手數と工費を省くことである、工女は極めて輕快に運用しつゝある、今日は甲過に入り明日は乙過に移るなどと云ふ輕薄な思想は無い、工女の賃銀は數千年來方々から集つて來て仕事を受けると云ふ、製絲場で檢査場に仕切の見て切が繭の製品の精良であると云ふことは擬知せらるゝであらう、工女の賃銀の關係が影響を及ぼす樣なことはない。

伊太利を視察してから墺太利に往きました。そうして、

ゴルッツの試驗場に、ボルレー氏を訪問したのです、同氏の下に於て先年佐々木長導氏が蠶學の研究をされました、是れが本邦に蠶業の學問を輸入した根原である其後同氏は本邦に渡來し蠶業の講話をなしたことは今人の胸耳底に刻されて居る故に我國の蠶業に關して居る者は忘却することの出來ない人物である、同氏は目下痛に業病に就て研究して居られ、野蠶にあるものも家蠶にあるものと同一であると謂ひ、軟化病は桑に附着する細菌と病蠶體にあるものとは同一にして、病蠶より分離したる細菌の培養は桑より病蠶の腸汁を添食せしむるも軟化病を發せないと云ふ說をなしつゝある、尚此他に發表は出來ないが原生動物の蠶見に寄生するものがあると謂つて居つた。

尚牙利政府の蚕業場は近傍の桑園を殺造し無代で當業者に配付しつゝあるが所謂一種の專賣法である。蠶種の檢査所は「ツェグザルド」と云ふ所にあり、規模は頗る大きく顯微鏡は二百四十臺あり、檢査員は皆女子で昨年は七百五十萬眼の檢査を行つたと云ふことだ、其蠶絲は此に貯藏し樽立前に養蠶者に配付する、桑苗も政府が仕立て無代で配付してある、それて一千八百九十四年に同國に栽植せられた桑苗は十四萬八千八十一本に達したと云ふことだ。

現今養蠶家は地方語で記載した飼育の注意書樣の印刷したものを配付してあることは何んと面白い趣向ではないか、そうして養蠶家の收繭は政府が相當代價で殘らず買上くる、此繭は種繭に十分は直に三十七箇所の國立蠶種製造所に送り、其他の繭は五箇所の國立製絲場に製絲の料に供せらるいのである、製造した蠶絲は南遙の如く檢査所に送付されるが政府製造のものゝみでは充分でないから伊太利若くは佛蘭西から輸入するそうだ。

夫れから墺路運輸に立寄りました、運輸には御承知の通外山君も居らるゝし、又古い養蠶地であるから視察したのですそれで此處には十八日間居り一回は「コーラット」地方に出掛け、一回は「ペチャブリ」地方に往きました。此國では蠶の事を「マイ」と云ひ、繭の事を「ロツン」と申します、「ロツン」とは果と云ふ義だそうです、人民は熱帶地方の常として至て無欲で懶惰で骨の折れる仕事はせぬ、數年の飯米があれば其年には稼働は行はぬと云ふ風だから進て人民に蠶業を起さしむることは困難であらうと思ひます。

桑と養蠶、桑の仕立方は根刈もあり立通もある、發育は極て迅速で抑木にして半年間も經過すれば六七尺も伸びる、それだから桑園を仕立てた其年から養蠶が出來る、養蠶は一年に八九回行はれる、土人は蠶が幾日經過したか知らないが二十四五日で上蔟するらしい、蠶は強壯であるが蔟は南瓜尖の緊綏は大層淵い、組織の害があるから其蠶箔の上に布を覆て蔟をさすが、飼育の法などは極めて亂暴で一日に一回桑を給ずることもあり或は給せないこともある、又眠中でも更に御構なく桑をやることがある。

製絲と織物、繭は決して賣らない、各自に生絲を製造する繭の品質は不良だけれども屑骨は宜しい、之を繰絲するには鍋に煮て竹の箆にて緒立をなし、又此竹箆を綿繰器となし絲口を小車に懸けて徑五寸位の長麌に繰る、そうして上等絲を以て織物を製造する、織物には縞もあり無地もあり一寸巾要絹の如きものて腰巻とし寒き時は頭から被ぶると云ふことだ、下等絲は之を支那人に販賣するそうです。

（完）

講筵

産業組合概論

大日本蠶絲會
技藝委員　農學士　月田藤三郎

第三節　産業組合の種類

産業組合とは奈何なる性質の組合にして其の存在か何故に産業及び産業者の經濟の發達上必要なるやは上説するところに依りて略之を悟りせらるべしと信ずるを以て、茲に産業組合の種類に就て少しく述ぶるところあるべし。

産業組合法は其の第一條第一項に於て四種の組合を認め、更に其の第二項に於て四種中一種を除くの外は何れの組合も他の組合の事業を兼ぬることを得べきことを暗示せり（今假りに此の組合を名づけて兼業組合と謂ふ）故に産業組合には左に掲くるが如き別あるなり。

産業組合
- 信用組合
- 販賣組合
- 購買組合
- 生産組合
- 兼業組合
  - 販賣購買組合、販賣生産組合、購買生産組合、販賣購買生産組合

此等の組合は前節に於て既に述べたるか如く各特殊の目的を有し、各異なりたる方途より産業及び産業者の經濟の發達を助成するなり。

夫れ斯の如く産業組合は大別して之を五種と爲すと雖、更に詳しく其實質を究すれば信用組合を除くの外は、何れの組合も其の目的の稍や其の性質を異にする數箇の目的を包有するが故に、又た之を幾多の組合に分別することを得へし、即ち

販賣組合
- (一)組合員の生産したる物は加工を施こして賣却する販賣組合。
- (二)組合員の生産したる物に加工することなくして賣却する販賣組合。
- (三)組合員の生産したる物に加工を施こして賣却すると共に、加工を施こさゝる物をも賣却する販賣組合。

購買組合
- (一)産業に必要なる物を購買して之を組合員に賣却する購買組合。
- (二)生計に必要なる物を購買して之を組合員に賣却する購買組合。
- (三)産業に必要なる物及び生計に必要なる物を購買して之を組合員に賣却する購買組合。

生産組合
- (一)組合員をして産業に必要なるに物を使用せしむる生産組合。
- (二)組合員をして産業に必要なる物に加工を施こし、及び賣却せしむる生産組合。
- (三)組合員の生産したる物に加工を施こし、及び賣却せしむる生産組合。

兼業組合
- 販賣購買組合、販賣生産組合及び購買生産組合は二十七種なり、故に都合五十四種の組合あるの理なり。

販賣組合に於ける物品販賣の方式は自ら二種に分たるへし、即ち委托販賣の方式に依るものと再賣買の方式を採るものとの二なり、隨て各種の販賣組合は之か爲に又た數種に分別せらるべきなり。

産業の種類は繁多にして其の業務は錯綜を極む、故に業務の進歩産業者の經濟發達を圖るの手段として採らるへき組合の種類は尚ほ他に是あるへし、唯た如上の組合は國家か法

力を以て保護奬勵を加ふるの必要ありとして法律を以て第一着に認めたるものに係るのみ、惟ふに刻下の急務に應ずるには之を以て足れりと爲すへし、産業者は此の中に就て自己の最も必要とする目的を有する組合の設立を試むへきなり。

第四節　蠶絲業界に於ける産業組合の利用

産業組合を其の目的に由りて別つときは五十有餘種を算ふるとを得へきは前節に於て述へたるところの如し、去れは蠶絲業者は自己業務の狀態に顧みて或は單一の目的を有するものを採り或は數個の目的を併有するものを設くる等臨むところに應し自在に之を利用することを得へし、今茲に各種産業組合に就き其の利用せらるゝ場合の一二を摘錄して讀者の考に資せん。

信用組合　信用組合は産業に要する資金の貸付及び貯金の引受の二種の事業を兼ね行ふを必要とする故に、單に貸付のみを行ふ組合又は貯金を預ることのみを目的とする組合は産業組合法に所謂信用組合に非ざるなり、即ち信用組合は一面に於ては中産以下産業者に最も適切なる金融機關にして、他面に於ては産業者をして勤儉貯蓄の精神を作興せしめ其の決行に便するの施設なり、由來邦人は貯蓄思想に富まず、貯蓄の大ひに起らざる當に之に基くもの多かるへしと雖、貯金便宜を圖る機關の設備全からざるも亦た其の主たる原因の一なるなからんや、今若し産業組合法第九條第二項に規定せられたるか如き原則に基き、鄰町村の區域に依りて信用組合の組織成り、組合員をして手近に於て預入を爲すを得せしめ、組合の役員をして勉めて勤儉貯蓄の必要なる所以を說示し、且つ定欵又は特別の規約を以て强制貯金の割を裁るか如き方法を講ぜんか、産業者か無益に費消すへき財を轉して有用の資に供せしむへく資本蓄積の良果を得せしむへし、其國家及び産業に利するところの莫大なる言を俟ざるなり、而して信用組合の他の目的たる産業資金の貸付は屢々述へたるか如く産業界に於て最も必要を感するの事項なり、中産以下産業者か其の業務の程度に相應せる資金融通の途なきに困しむの結果は産業の發達に障害を與ふること極めて多大なるものあり、故に信用組合か財力に基く信用に缺如せる不幸なる産業者に對人信用を以て資金貸付の利便を與ふるに於ては産業者の之に由りて産業經營上に受くる利益は蓋に測り知るへからざる者あるべきなり、之を蠶業界に例するも蠶種桑樹肥料の代金、蠶具の新調修理費用用達、桑葉不足の急場を救ひ繭仲買商の踏倒しを避けて適當なる賣時を待たしむるの資を供給するか如きは事頗ゝ多しと雖、産業及び産業者經濟の發達を助長するところ敢て鮮少にあらざるなり、而して斯の如きは信用組合が其の本分として力を盡すへき點なりとす、要するに信用組合は百般産業に於て其の必要を認むるか如く蠶絲業界に於ても亦た最も其の利用に力めざるへからざる重要機關なりとす。

販賣組合　販賣組合の目的には組合員の生産したる物に加工する場合と然らざる場合とあり、加工とは或る工作を施

こすの意なり、生繭を蚕蛹乾燥し、繭より生絲を繰製し、生絲を以て羽二重を織成するか如き貴な加工と稱すへからす、販賣組合の利用は(一)物品賣却に關する各人の勞費を省減し(二)仲買商等に不當に利得せらるゝを防き(三)荷口を揃ふるに由り好賣先を得らるべく四市場の氣配を計り最も適當の時期に賣放つを得へく五品質改良の目的を達する等許多の効益を舉くるに至るへし。

販賣組合の第一種としては繭乾燥室を設備し、組合員の收繭を殺蛹乾燥して販賣する繭販賣組合、組合員をして種繭を生産せしめ組合に於て之を輯めて蠶種を製造して販賣する蠶種販賣組合、組合に製絲場を備へ組合員の生産したる繭を集めて生絲を繰製して販賣する生絲販賣組合等あるべく、第二種としては蠶種製造人か各自の製造したる蠶種を取纏めて賣却する蠶種販賣組合、養蠶家か繭を共同販賣する繭販賣組合産絹製絲家か其の製造に係る生絲を集め揚返を行ひ品等を定めて賣却する生絲販賣組合等あるべし、而して第三種は前二種の合併せられたるものにして組合利用の實際に於ては寧ろ此の種のものを普通とす、例之養蠶家の設定する販賣組合に於て、組合員の生産したる上繭は集めて組合の製絲場に於て繰絲して横濱市場に販賣し、下繭は各組合員をして內地向織物原料絲を製せしめ、組合は之を輯めて賣却し、又た同功繭は其儘組合に於て賣却の手續を爲す等雜多の事業を兼ね行ふか如き即ち之れなり。

左に現在販賣組合の實例を示すへし。

(一)保證賣買日進製絲販賣組合
事務所　靜岡縣小笠郡中內田村中內田三百八番地
區域　遠江國及び駿河國
目的　組合員出張したる繭を生絲に製出して之を市場に賣却す

(二)有限賣信濃製絲販賣組合
事務所　長野縣小諸郡長窪古町字七十八番地
區域　一町一村
目的　組合員の委託を受け其の製造したる生絲に加工して販賣す

(三)無限賣丹後製種販賣組合
事務所　京都府中郡三重村字三重八十一番戸
區域　一郡
目的　組合員の委託を受け其の生産したる蠶繭を共て製種して販賣す

(四)有限賣信力蠶種販賣組合
事務所　長野縣更級郡力石村八十六番地
區域　一村
目的　組合員の委託を受け其の生産したる蠶種を販賣す

(五)有限賣信濃野蠶絲共同販賣組合
事務所　長野縣小諸郡滋野村甲百九十五番地
區域　一村
目的　組合員の生産に係る蠶繭を共同販賣す

(六)有限賣信蠶絲販賣組合
事務所　長野縣小諸郡中國田村大字保野
區域　二郡
目的　組合員の委託を受け其の生産物を販賣す
組合に於て取扱ふ物品は蠶絲と すべき製絲上の副産物及び出殼繭を取扱ふことを得

(七)有限賣信州繭製絲販賣組合
事務所　長野縣小諸郡竹田村二百十四番地
區域　一町四箇村
目的　組合員の委託を受け其の製造したる生絲を一定の組織を為し且つ販賣す

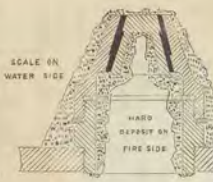
賣す
組合に於て取扱ふ物品は足踏器械製及び機械製の生絲とす
（第四表未完）

瀝罐使用心得

工學士　芳賀惣治郎

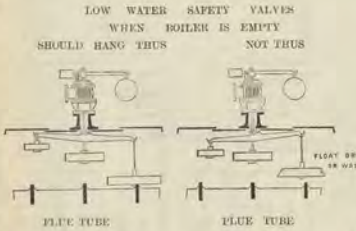
第五節　易鎔性の栓（Fusible Plug）

瀝罐の給水減少して爐筒を過熱せんとするとき給罐の頂上に裝置せる易鎔性の金屬鎔解して蒸氣及湯を吹き出し焜爐上の火を吹き消す裝置あり、之れを「ヒウゼブル、プラグ」（Fusible Plug）と稱す。



NEGLECTED FUSIBLE PLUG.

內ち焚き罐は必ず之れを備ふべし、「プラグ」の兩面即ち水と火に接する面は常に掃除し置かざるべからず、湯垢の附着せる爲め過熱して缶水の未だ充分ならざるに、「プラグ」の鎔解することあればなり、又火に接する面に塊灰の附着するときは熱の不好導を來たし水の缺乏せるも「プラグ」の鎔解せざることあり、故に瀝罐の掃除日には「プラグ」の兩面を掃除することを忘るべからず、上圖は掃除を怠りたる「プラグ」を示せるなり。



「プラグ」の易鎔性の金屬は定期を以て取り換へざるべからず、二ヶ年毎に取り換ふるを常とす、瀝罐內部を掃除する際には抵水安全鑵（ロー、ヲーター、セーフテーバルブ）を取調ふべし、水の缺乏せる時に浮標の降下鳴らすか否を驗すべきなり、其作用を試驗せんと欲せば瀝罐掃除の爲め火を去りたる時氣壓の全く滅ずざる內に行ふべし、而して最も良法とするは「プローオフ」を開きて水準を降下せしむること、「ゲーザグラス」の底部に至らば抵水警報「ローオーター、アラーム」の鳴り出す如

くすべし、警報止みたる後流罐を冷却するものとす。

第六節　給水の缺乏（Deficiency of Water.）

流罐給水の缺乏は往々破裂を引き起すものなるを以て「オ！タ！、ゲーヂ」又は給水裝置に注意し給水缺乏の危險を避くるの心掛こそ必要なれ。

給水缺乏して熔爐の頂上露出し過熱の爲め爐筒壓迫せられ變形するに至る迄は其情態により其時間に遲速あるべし、時としては瞬急の手當を施し得べき時間の存するあれども、往々迅速にして何等の手當を施し得ざるもの多し。

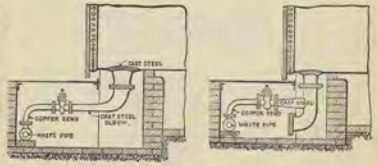
一般に給水の低減せるを發見するときは直に「ダンパー」を塞ぎ安全瓣を開くべし、若し餘有あらば濕れ灰又は其他の不燃質料を投入して火を掩ふべし、決して火を掻き出すべからず火を掻き亂すときは反て熔爐の温度を昂めるものなれば、鑪板を過熱するの憂あればなり、次に給水を送入して罐内の温度を降下せしむべし、斯る場合に際し火を掻き出し流罐を破裂せしめ死傷したる火夫少からず。

火夫若し「アヤドーア」を開き熔爐の赤熱せるを發見せるときは直に附近の者に報して總てを退去せしむべし、流罐若し、數個連設せるもの〻一なる時は直に鞏合瓣を閉塞すべし蒸氣の他罐より入りて損傷を增大するのみならず、他罐が爲めに「プライミング」を起すことあればなり、給水缺乏の爲め「フル！」壓迫したるときは直に之れを所轄官廳に急報し極倉を受け相當の修繕を施したる後にあらざれば再用すべからず。

第七節　ブロー、アウト、及スカム、タップ（Blow-out and Scum tape.）

給水の性質により罐内水の表面に泡沫の發生するあり「スカム、タップ」を適當の位置に設け水準の位置適當なるを俟ち時々吹き去るべし、一回に長時間行ふは良しからず、少時間屢々行ふを良しとす。

凡て流罐は容易く開閉し得る「ブローオフ、コック」を具へ、毎日一回給水の性質により數回「ブローオフ」するを要す、殊に注意すべきは「コック」を閉つることなり、若し閉塞不完全ならんか、水の漏洩して空罐を焚くことあるべし、故に「コック」の開閉に用ゆる「ポックス、ケイ」には鍵を設け、「コック」の完全に閉鎖し終りたる位置に復さざれば抜き取れざる裝置となすべし。



「ブロー、アウト」管の端は濁洩の有無を容易く檢査し得る

機據付くべし、「ブロー、オフ、コック」は一ヶ年に少くも一回取り外し廉り合せを直すべし。

「ランカシヤー」及「コーニシュ」式の流罐にありては「ベントー」又はL字形の管を罐底に取り付け之れを煉瓦にて包み、煤煙及灰燼に接觸せざらしめ常に掃除し置くべし、温氣に觸れむるときは腐蝕するものなればなり。（上圖を見よ）

罐底に銅鐵或は軟鐵の塵金を取り付け之れに「ベンド」又はL字形管を連結し、而して排出管に至る間に銅製のL字形管を圖の如く挿入し、以て罐體の膨縮より起る動搖の「コック」及其他接合部に及ぼすことなきを計るべし。

桑樹仕立方の件に就き質問

山形縣西村山郡川土居村
大日本蠶絲會員　大泉四間吉

予は刈桑仕立を試みんとするに左記の各項不審に付御明教を乞ふ

（一）刈桑は我が地方の如き雪國にても能く栽培し得らるべきや。

（二）仕立方は高刈、中刈、根刈何れを可なりとするや。

（三）種類は鼠桑又は市平の實生を撰ばんとす何れか可なるや又他に良種あらば承りたし。

答

大日本蠶絲會
技藝委員　桃井與五右衛門

（一）五尺前後の積雪にても栽培し得らるる可し。

（二）株作中高刈は根刈中刈等に比し鼠蛆蟲及膏藥病に罹る多

しと雖も、積雪の爲め止を得ず五尺以上即ち雪に埋れざる程の高さ可とす。

(三)市平、赤木、山中高助の三種は雪國に適する種類なりと雖も風土の如何により不適なることあり、實生を採生し宜しき實生は概して親木より業實不良に變ずるものなれども樹質堅硬にして寒害其他の害を被ること少なし。

蠶の呼吸器に就き質問

鳥取縣氣高郡中郷村
大日本蠶絲會員　渡邊彦治

高等動物の呼吸器に在ては塵埃其他刺戟物等の吸入せる場合之を防止する機關あり、亦之を排出する爲め咳嗽の法あるあり、蠶の呼吸器にも之と同樣の作用をなす機關機能あり、詳密の御教示を請ふ。

答　大日本蠶絲會
技藝委員　農學士　岡島銀次

蠶の呼吸器は一般昆虫類と同じく氣管にして、此氣管の皮膚に於ける開口を氣門と云ふ、氣門の外面は精緻形にして黑褐色をなす、尚ほ詳細に之を檢するときは内部は恰も篩の如く數多の細孔を見る、此細孔は粗剛なる毛の數多塞り て而も各毛は細小なる横枝を以て相連絡するものなり、且つ此毛たるや管に上面の一列のみならず氣門の内部に數層相重なるを以て空氣は此毛の間を通過するときは外界より蠶體内の氣管へ一直線に進入すること能はざるべし、氣門は之れのみならず其内部に二枚の薄き膜ありて左右に開着して丁度門扉の如き作用をなす、此膜には筋肉附着して其伸縮により自由に氣管への通路を開閉す。

蠶の呼吸器は上述の如く面も氣門の面をなす孔の目は一分の幾千分の一と云ふ如き大さなるを以て吾人の呼んで塵埃と稱する物體は進入すること能はず、又細微なる物質氣門の面に至るも空氣と共に内部へ直進すること能はず中途に繫留せらるゝならん、高等動物の如く内部へ進入したるものを排出するの法あることなし。

蠶具消毒に就き質問

千葉縣印旛郡公津村
大日本蠶絲會員　土肥鼎

蠶室消毒にホルマリン蒸發器を以てするを良法と思ふも蠶具蠶に至りては之を施行するに拘ひ難なり、依て蠶具蠶網に附着する各種の病毒は蒸發器の熱力を以て滅殺し得べきものなりや、若し滅殺し得べしとせば其熱度及時間を問ふ。

答　大日本蠶絲會
技藝委員　農學士　林驊作

蠶室の消毒には「フォルマリン」撒布法を最も適當なりとす蠶具類の消毒は「フォルマリン」蒸發器にて蟻酸「アルデヒード」消毒を行ふか、又は直接「フォルマリン」撒布を行ふか、若くは蒸汽消毒法によるを可とす、蠶網類の如き乾熱殺菌にては非常なる高濃度にあらざれば消毒の效なく到底實行すること能はず。

蠶室の「フォルマリン」撒布法は約三十五倍の清水にて稀溶せる「フォルマリン」液一升を室の四百平方尺に對して使用す

る割合に撒布すべし、蠶具類の瓦斯消毒を行ふには密閉室を準備し蠶具は可成重積せざる樣に配置し、右蒸發法によりて十疊の室に簡、蔟、網等を收容したるものに對し約四合の「フォルマリン」を使用すべし、蒸汽消毒法は沸騰點の蒸汽を三十分間以上流走せしむるなり。

但し以上消毒の方法及び施行上の注意の詳細は茲に一々記載を以て問著宜しく左記の書物を一讀すべし。

東京市日本橋區箔屋町十四丸山含英堂
早稲田學人著　蠶業蠶病消毒法

桑葉貯藏法に就き質問

岐阜縣武儀郡大矢田村
大日本蠶絲會員　井上桑一

(一)秋蠶期は摘葉のみにして且つ水分の少きと氣溫の高きとに依り桑葉の貯藏實に困難なり、信州地方には地窖を設け以て貯藏すると、其地窖なるものゝ構造を明細御說明を乞ふ。

(二)種蠶期にて未だ多量に貯葉する必要なき場合には約一貫匁入りの籠に入れて井戸へ懸垂し置くときは二日乃至三日を經るも青々として少しも變ることなし、右の方法は可なるや否や御教示を乞ふ。

答　大日本蠶絲會
技藝委員　松永伍作

(一)地窖とは穴藏の如きものなるなし、穴藏は土中を深さ六七尺(深淺は必ずしも一定ならず)堀り其底及周圍を木材に

て張るか若くは石又は煉瓦を積て湧水を防ぎ、且つ光線の直射せざる樣構造するなり。

(二)桑葉を水面に接ざる程度に井戸に釣すは良法なるべし。

蛆蠶の件質問

奈良縣磯城郡櫻井村
大日本蠶絲會員　田村多門

(一)余に蔗糖せしむる目的を以て是蛆蠶を孚化飼養すること年久し、然るに蛆蠶は孚化後十日乃至二十日にして斃死しまたは研究家なれは定めて飼養の方法も完全なるものあらん、依て同博士の御教示を仰ぎたし。

(二)奈良縣吉野郡十津川村は日本國稀なる山間の僻地にして何れより行くも山間險谷を二十里以上を隔ざれは達する能はざるの僻地なり、斯の如き土地にして未だ曾て桑蠶を飼みしことなし、而して明治二十三年始て飼育したるに五割以上の蛆害を被だり、右は如何なる理由は基もなりや佐々木博士の御說明を願たし。

答　大日本蠶絲會
技藝委員　理學博士　佐々木忠次郎

(一)蛆蠶の飼育は質問者の試驗せられたる通り實に困難なることにして、小生も毎々飼養を試みたりしも未だ孚化目的を達したることなし、小生の試驗方法御參考まで左に記載すべし、六尺立方の框を稍ひ其四面及穴天井に目の細かなる金網を張り、之を鉢植の桑に被せ内に蛆蠶を放ちて達

卵するや否やを試みたりしも、此蠶は活潑に桭内を飛翔し頭部を打ちて遂に斃死せり、依て金網の代りて寒冷紗を張り此中に蠶を放ちたるも矢張頭を打ちて斃死す、故に到底右等の内にては蠶を飼育すること至難なることを了知せり、但し大なる蚊帳にて桑株を覆ひ此中に飼育せば或は目的を達することを得べしと信ずれども未だ試みたることなし。

(二)未だ曾て育蠶せしことなき地に於て五割以上の蠶蛆を出したりと云ふの理由は他に非ず、必ず同地方には從來より桑樹は植付ありか若くは自然生の桑樹は存在せるものなるべし、若し右存在せるものとすれば必ず其桑樹に桑蠶を寄生すべし、此桑蠶には蠶蛆を寄生するものなれば蠶兒に蛆を寄生するは當然の事なりと信ず。

眞綿製造の件に就き質問

静岡縣庵原郡飯田村
大日本蠶絲會員　松永健次郎

出殼繭にて板懸眞綿の製造方最初より仕掛迄の手續き御明敎を請ふ。

答　大日本蠶絲會
技師　委員　山本竹藏

予は先年近江國阪田郡地方に於て行ふ所の眞綿製造法を調査せしことあれば、今之を左に抄錄して質問に對する答とならさん。

出殼繭を眞綿に掛けんとするには先づ之を練ざるべからず而して繭は布袋に入れ練釜に投ずる以前に於て少くも五時間以上水に浸し之を引揚げ水を濾き充分丙汁を去るべし。

繭を入る、布袋は一袋に一斗五升位を入るべき大さのものを用ふ。

練方に數種ありて「ボカシ」灰と稱し總前地方にて製造せらるゝ「コロビ」の灰を用ふるものと、重炭酸曹達を用ふるものとあり、重炭酸曹達を用ふるものは練釜を脆崩ならしむるも其の練上げの色白きと其價廉に且無難作なるを以て現今一般に此の曹達練を行ふ。

而して前記の繭を入れたる布袋二ッ即ち繭三斗に對し清水約四斗、重炭酸曹達約六十匁内外を用ふ、此分量は各家用ふる所多少の相違あり、先づ練釜に前量の水を沸かし重炭酸曹達を投じて溶解せしめ、然る後繭袋を入れ後ち十五分乃至二十分位を經て一回上下に反轉せしめ、尚十五分位經袋中の繭數顆を取出し之を伸ばし試み、適度なれば之を引揚げ流れ川又は井等の近傍に持行き竹簀の上に置き、頻りに清水を濾き充分丙汁を流出でしめ更に其袋を清水を湛みたる桶中に投じ流り製造に着手するなり。

製造に要する器具は盥及び掛盤にして盥は内徑一尺七寸五分深さ六寸位のもの、此中に竹にて支へて掛盤を鎹狀に傾け立つるなり、掛盤は左圖の如く六分五厘に一寸位の木片二

個を二本の横木にて繋き合はせたるものにして(イ×ロ)の二ヶ所に爪掛と稱し呼ぶめる部分あり、此距離縦九寸二分にして其繭の上下に引き掛かる部分なり、横は八寸五分とす、其繭の大さを定むるを要せざれば盤の大小は適宜なるべし。

さて水桶に袋のまゝ浸しある繭は引揚げ絞り一粒づゝ離し掛盤を据へたる盥の水中に持來り、口を開きて左手の食指以下の四指に掛くる事凡そ二十粒内外とす、下等繭は三十粒内外も掛くる事あり、斯の如く左手の四指に掛けたるを一手掛と稱し一手掛出來たれば右手の食指以下四指をもつて一手掛の袋狀をなせる内側に入れて引伸しつゝ回轉して扁平ならしめ之を前記の掛盤に掛くべし、此の掛盤に一手掛分三回即ち三手掛を掛けたるを厚羽一枚とす、二回掛けたるを薄羽一枚とす。

斯く一枚を掛れば右側を少しく折りて境界を明かにし五枚重なるに及びて之を外づして二つに折り、此五枚重ねのものを二つづゝ組合せて水に浸し置き適當の場合に之を引揚げ、耳の傷むさるやうに絞なり。

絞りたる眞綿は一枚づゝ手にて振るひ擴げ然る後二人相對して鍬を伸すなり、鍬を伸すときは引板と稱し一尺一寸に九寸四分位の板の上にかさね行くものにして、鍬の引き伸ばし方は中央一回引張り角を一回引張るなり、引伸したる眞綿は三枚づゝ莚の上に列べて晴天に乾すなり。

乾きたる眞綿は一枚づゝ叮嚀に二つに折り之を鮫然重ねて雨端を紐にて括なり、此一括り即ち一把と稱するは百二十五匁(凡そ百枚)にして四把を雩にて括り之を一束とす、即ち五百目となり、更に此四束を三列に十二束を紙袋に入れたるを一本又は一個と稱し六貫目の荷造となるなり。

練に「ボカシ」灰と稱し六貫目の荷造一斗に付灰凡二合の割にして水六升五合を入れ桶に灰汁を製し用ふといふ、宜しく實驗せらるべし。

桑樹こんな二年に二ッ度も芽をやたら生べ過んでヨイも喪れ〳〵ちあ〻おちつちゃかり許りだ
蠶種　去年や、殺蟲殺菌おつころがしといて殺けいせいでチョイ〳〵青くなつたチョーて小言ゝ云ふたつて仕方がれいなやれいい

絲況

横濱市場

三月中に於ける横濱市場の光景は、毫も活氣を認むることなく、微頭微尾萎微不振の商況を以て終り、絲價又漸次不味を現はし、本上一番は遂に九百圓臺を割り、八百九十圓前後に低落せり、蓋し斯の如き不況を呈するの一時歐州需要地の買氣薄らぎたるに加へ、同供給地に於ても、賣物の現はれいしるべき一層購買者の氣乘を弱からしめたりと、偶ゝ當用向の買注文に接するあるも市場に之に應ずる適品の乏しきも其主なる原因なるべし、然れども春季二三月の交にあり市場の閑散なるは敢て異數とするに足らず、信州春挽絲も月末より漸次着荷したれば今後に於ては多少の活動を見るならん、輸出絲に於ては斯く未味の狀況を續けたりしが、地遣絲に於ては非常の好調を呈し、其額約と三千個に達せり、必竟羽二重の賣行は稍〻鈍くなるに反し、當業者の言に依れば羽二重にして今後三四ヶ月間現下の狀態を持續せば、新絲は各地遣絲に供するも尚不足を告ぐるに至らんと、惟ふに現下の在荷と春挽絲の出荷は之を合算するも尚二萬乃至三萬圓を出でざるべきを以て、新絲期前に持越を氣構ひ強て賣急ぎを爲すの要なかるべし、宜く成行に從て賣り應ぜば在荷停滯の患なかるべし、其將來に於ける絲況に就ても最大得意なる米國は平素我國に對する同情の濃厚なるに、戰勝國の商品として我生絲貿易は一層好望確青の秋に接し、霧家是より多事ならんとす、戰事は忠勇義烈なる皇軍の東に倚て安定を告げ、其結果は益〻我生絲貿易の進むに從て益大ならんとしつゝあるべかりず、時局は戰機の進むに從て益重大ならんとしつゝあり、之れ當業者の責務は歩一歩に加へ、需論に製絲に品質善良にして產額一層增大ならんことを祈る、蓋し之をして然らしむるか否とは一に當業者の覺悟如何にあり。

面して本月中最も高價に賣行きたるものは出雲東雲館の太一千〇五十五圓にして其最も低價なるは信濃布信館太の八百八十五圓なりし、今本年各月の最高價と前年のそれと對照表示せば左の如し。

生絲最高價月別前年對照表

明治三十七年		明治三十六年		價格の差
一月	島根縣平田製絲太	一〇九〇	群馬縣橫濱製絲	一二五
二月	三重縣度會製絲太	一〇五五	埼玉縣埼玉製絲太	一二〇
三月	島根縣東雲館太	一〇五五	埼玉縣橫濱製絲太	一〇〇
				四五

今左に本月中の生絲集散種別表を掲げて參考となさん

明治三十七年三月自一日至三十一日生絲集散表

月日	荷受合計	賣了	引渡	輸出	地方機屋	國名	社名	種類	最高値	備考
一日	一七四俵	一五六俵	一五九俵	一六八俵	信濃	武蔵	松屋上水	生糸	九八〇	佐渡沙金の産出なりし
二日	二二二	九三	七〇	三七七	信濃東信	信濃	諏訪	筆	一〇五五	引續き商況漸く面白からざる商況なりし
三日	九九	二九七	二九八	一〇	長野信濃	信濃	諏訪	紙	九八〇	相場ずり〳〵に安直を示し買氣理はれず
四日	二五五	三四七	一三七	一八	群馬	岩代	共榮	綿	九五〇	所合ふ商弗々出來したれど不味況なりし
五日	四一	二二六	六一	一六三	長野信濃	信濃	岡二	製	九二〇	當日同標非々しき商況なく強ての取組ありし
六日	一二				長野信濃	信濃	小口	製	九一〇	日曜日
七日	一九三	一九	一六	一九	長野	信濃	原	絲	九〇	休日柄に比し一層面白からぬ景取なりし
八日	三〇六	二四	二九	一六	岩代	陸奥	三春	社	九三五	買人の現直に應下實盤ふるものは佛々手合出來ぜり
九日	一七八	七六	七二	一五九	岩代	同	郡山	社	九四〇	當日同標更に變りなし

明治三十七年三月自一日至三十一日生絲集散日別表

月日	持越	入荷	賣了	地方機屋	輸出	合計
一日	一三二	一三二	一三二	一七四	一〇二	一七二
二日	三二	一七	一七	二二二	一二二	二二二
三日	七三	八	九	九三	七	九三
四日	九	二	二	二九五	二八	二九七
五日	二		三	二八	三四	三四七
六日	三	一二	一二	一二二	一二六	一二六
七日	三	一六	一六	一六三	一九	一六
八日	三	五六	二四	三〇六	二四	三〇六
九日	三	六	七六	一七八	七六	一七八

備考

一、欄中單位個は九貫匁を印す。

二、持越とは客月より本月に持越したるものにして本月一日の調査、繰越とは本月より翌月に繰越すべきものにして本月末の調査に係る。

三、前月分の繰越と本月分の持越と其數一致せざるは尚調査中のものありしに依る。

四、繰越日中米國に輸出せるものは三千七十六俵にして歐洲に輸出せるものは九百九十九俵なりとす。

但し二俵は十六貫目なり。

實左に生絲集散日別表を示すべし。

月日	入荷	賣了	引渡	輸出	地方機屋	國名	社名	種類	最高値	備考
一日	一七四俵	一五六俵	一五九俵	一六八俵	信濃	武蔵	松屋上水	生糸	九八〇	佐渡沙金の産出なりし
二日	二二二	九三	七〇	三七七	信濃東信	信濃	諏訪	筆	一〇五五	引續き商況漸く面白からざる商況なりし
三日	九九	二九七	二九八	一〇	長野信濃	信濃	諏訪	紙	九八〇	相場ずり〳〵に安直を示し買氣理はれず
四日	二五五	三四七	一三七	一八	群馬	岩代	共榮	綿	九五〇	所合ふ商弗々出來したれど不味況なりし
五日	四一	二二六	六一	一六三	長野信濃	信濃	岡二	製	九二〇	當日同標非々しき商況なく強ての取組ありし
六日	一二				長野信濃	信濃	小口	製	九一〇	日曜日
七日	一九三	一九	一六	一九	長野	信濃	原	絲	九〇	休日柄に比し一層面白からぬ景取なりし
八日	三〇六	二四	二九	一六	岩代	陸奥	三春	社	九三五	買人の現直に應下實盤ふるものは佛々手合出來ぜり
九日	一七八	七六	七二	一五九	岩代	同	郡山	社	九四〇	當日同標更に變りなし

十一日	四七	二二二	二一九	二二	信濃	信濃	信濃	信濃	八四	信濃	九七	新規発足雄せざる風情にて神光日への
十二日	一三〇	五三	三六三	四八	局五	局五	局五	局五	八八	局五	八八	期待を見しみなり
十三日	一三六	二一三	二七二	一一五	信濃	信濃	信濃	信濃	一〇〇	信濃	九〇	引続き不振にて人氣は日々に引続みつ
十四日	八一	一四三	二五〇	一六	西筑摩郡	西筑摩郡	西筑摩郡	西筑摩郡	八九〇	西筑摩郡	八九〇	いあり不振にて人氣は日々に引続みつ
十五日	一五	二三五	三三二	一九	岡谷	岡谷	岡谷	岡谷	一〇〇	岡谷	一〇〇	當用小口注文へ帝々手合出来せしのみ
十六日	二三五	一三七	二九九	五八	英信林業	英信林業	英信林業	英信林業	八九〇	英信林業	八九〇	なり引続き
十七日	一四六	一三一	一四七	一八	山製糸	山製糸	山製糸	山製糸	一〇〇	山製糸	一〇〇	當用小口注文へ帝々手合出来せしのみ
十八日	一二四	六五	一四七	一八	九	九	九	九	八九〇	九	八九〇	日曜日
十九日	一九九	一三四	二四三	五四	武蔵信濃	武蔵信濃	武蔵信濃	武蔵信濃		武蔵信濃		日曜日
二十日	二四一	六三	一六七	一〇五八	弁製糸	弁製糸	弁製糸	弁製糸		弁製糸		
二十一日	七六			二一三	光社	光社	光社	光社		光社		
二十二日	九七	六三	一〇八	一九九	信濃	信濃	信濃	信濃	一八四	信濃	九〇	市場は氣勢なく知て不振の入電に接し商自からも沒る商況なり
二十三日		九五	一二七	三三六	諏訪大富製糸	諏訪大富製糸	諏訪大富製糸	諏訪大富製糸	八九〇	諏訪大富製糸	八九〇	一向に陰たる商況なく前日同様の市面
二十四日	八三	八七	一二三	四五	岡谷	岡谷	岡谷	岡谷	八六	岡谷	九四〇	なり人氣は日々に陰たる商況なく前日同様の市面
二十五日	五七	一二三	三五	四五	信濃	信濃	信濃	信濃	九〇	信濃	九八五	見込りの裏に推々と取組出来ざりし
二十六日	一七四	三六	二九九	二八九	英信業	英信業	英信業	英信業	一八〇	英信業	九八〇	見込りの裏に推々と取組出来ざりし
二十七日	一六四	三六	二五	一一三	社	社	社	社	一〇〇	社	九八〇	来週節当帆及積切の爲め染で商況なり
廿八日	五六								八九〇		未定	来週節当帆及積切の爲め染で商況なり
廿九日												大祭日
三十日												日曜日
三十一日												日曜日

鳥左に本年一月以来の生絲集散の狀況を明かならしめん爲月別表を示すべし

明治三十七年生絲集散月別表

月次	持越	入荷	賣了	積越	輸出	差引出廻
一月	三二八〇七俵	六五〇〇俵	一七〇一俵	四九六俵	九一二七俵	八一九五六俵
二月	二四二七	二八九九	九二一九	七七八	一七一一七	四八五七一六
三月	一七一一七	三九三〇	五二六七	二八三〇	三一五一九	四〇七二一
計		一三三二九	三一五九七	四二二四	四一五二〇	一六一七二一
十六年同上		一五八二六	二六〇八四	四五二〇	一五三四〇	一六二九八二六

紐育市場

（三月十二日報）

當市場は一般に沈靜にして相場の如きも翻転より寧ろ強人氣なりし、されど上海及び横濱市場とも買手は益々高めるべきか期待し容易に買人に應ぜざるものゝ如く、當に現場のみならず雰囲気も同様の形勢に爲めに歐洲に於ける買人は何れも買入れの期を経過し、爲めに需持筋の唱ふる相場にて買はざるべからざるに至りたり。

生絲市場には斯かる形勢あるも昨今相場物需要の大勢今見るに、昨日相及びボンの如き骨に當國のみならず一般に盛況減少し、僅かに實用品の買入に過ぎざるものゝ如くなりと、然るに巻機物の供給に漸次増加の傾向あり、且巻機の

時季も切迫を告げつゝあるを以て生絲市場は勢力強盛の傾多を以て新季節に進むなちんかと思はれたり。

目論見に横はる戦雲如何に成行くべきかに生絲及び相場物界に重大の關係を與ふるならんかと歐洲以来より注意を怠ぶせり、而して一般の意見は需要の減少は原料生絲の供給量が勢少数となるべきを以て政て種物を失するが如き事あらざるべしと思はるゝも、目本に於ては第三の後備軍が召集さるゝ場合に至ると雖も製造上加減なるべしと思はれず、只露國及伯の歐洲諸国は経済界の動搖と共に勢力強盛の減温を見るべし、是れ金融の緊縮と共に歐洲諸国の需要者は直接間接の関係に敏感なるを以て、商人の如きは注意に注意を加へて相場物の買入れを爲すなるべしと云ふにありき。

相して同商組在内田帝國絹織等より其筋へ報告したる最近の変報を掲くれば左の如し。

生絲は買手相場の下落を見越し當産用品の外注文少なし（三月十一日報）

生絲は伊太利絲相場下落の爲め多少の取引ありたるも其他は繰りなし（三月二十五日報）

生絲は相場下落の爲の現在生物共に取引殆如ぜり（四月八日報）

里昂市場（二月二十七日報）

當地市場の人氣は日露開戰の當時に於ては稍々動搖せしが、開戰後次第に落附きて今日は最早平穏に復したり。

歐洲織屋目下の狀況は不相變原料高入れには勢ひ鋭くして唯々當用日々需の數量のみ僅に買入るゝに過ぎず、從て絲價なかして上昇せしむ可き機会到來するものゝ如し。

當歐洲絲今週の出來直は左の如し。

「セザエー」二等十三—十五　四十五法
同　二等九—十一　四十八法
「ピエモン」二等十—十二十一十三　五十一法
伊太里一等十一十三　四十八法
同　二等十三—十六　四十五法
意里一等九—十一　四十五—六法
同　二等九—十一　四十三—四法
馬耳塞所機關の市況は少しく賣人增し手合　意里黄廉十法二十五にて出來せり。

東洋蠶絲の中不相變入の注目を呼ぶものは横濱市況の如何之れなり、然かるに期場よりの來書に依れば若始平穏にして戰爭に影響されざる樣の狀色見へず從て當黒品市場も其影響を受け本週の如きは日本絲稍底堅手堅く持場へたり即ち此出來直なる左に掲く

日本絲横一等九—十一　四十五法牛
同　一等中二等九—十一　四十五法
同　二等九—十一　四十四法牛

同　一等二等十—十二　四十四法
同　二等二等十一—十三　四十四法
同　二等十一—十三　四十三法
同　一等一等中十三—十五　四十三法牛
同　一等二等十三—十五　四十二法
掛田一頭馬　四十一法二十五
同　二頭馬　四十一法七五

尚るに當後同地駐在山田帝國絹織等より其筋へ報告したる電報を掲くれば左の如し。

生絲相況は繰りなし相場の氣配弱し、本邦蠶種生絲一當中九乃至十一「アニール」四十五乃至四十六法の相場なり（三月十二日報）

生絲取引は當産用のみにして依然不味相場一般下向きなり、日本機械生絲一當中九乃至十二「アニール」物四十五法の相場なり（四月九日）

市場の氣配前報の如し本邦蠶機生絲一當中九乃至十二「アニール」物四十三法の相場なり（四月九日）

美蘭市場（二月二十七日報）

美蘭市場にて目覺敏き現ほるゝ共活氣乏しくして相場は不相變安く、今週の出來直はフォッール修品四十六法牛なり云々。

歐洲に於ける三十六年中蠶絲檢査高

（二月六日附在里昂帝國絹織事務）

昨三十六年中殊に下半季間に於ける絲況不振の結果、同年の歐洲蠶絲檢査高は其前二年分に比すれは左に掲くるか如く不渉減縮を示すに至れり。

三十六年分	生繭及撚絲檢査高		二一、〇七四、八三二
三十五年分	同		二四、二七二、八三九
三十四年分	同		二二、三一六、六三〇

前掲檢査高を生絲及撚絲に區別すれは昨年分は生絲及撚絲共に減少を示せること左の如し。

	三十四年	三十五年	三十六年
生絲	一二、九三四、四四二	一四、二〇〇、〇六三	一二、四四五、〇一六
撚絲	九、三八二、二八八	一〇、〇七二、七七六	八、六二九、八一六
計	二二、三一六、六三〇	二四、二七二、八三九	二一、〇七四、八三二

三十六年に於ける取引減縮の影響を最も著しく蒙り其檢査高を減じたるは撚絲にして即ち三十五年分に比し一割四分三厘を減じ生絲は一割二分三厘を減じたり。

歐洲各蠶絲檢査所に於ける一昨年及昨年の檢査高を掲け相對照すれは、昨年に於ける減縮の割合は地方に依り頗る不同なること左に示すか如し。

檢査所地名　三十五年　三十六年　增減百分割合

佛蘭西			
アミエン	二八六	一二九九	減一九、三二
ボーブナ	二五三、四〇四	二〇四、四五三	減一九、三二
アヴィニオン	一二、三六、九二二	一七二、七四五	增三九、三九
カレー	五五、五五〇	四七、七三三	減一四、〇七
里昂	七、一六五、〇二五	六、六五〇、八四〇	同　七、一七
馬耳塞	一、一六、四五〇	五八、一五〇	同　五〇、〇六
巴里	二二、四四、一三二	二一、一〇六、八	同　五、八二
プリヴァ	一二、六七二	—	—
ルーベー	四四、五五四	三八、五五一	減一三、四七
サンシャモン	二四七、〇四八	二五五、九七二	增三、六一
サンヴェランヌ	一二、六六〇、二四二	八九六、六四五	減二六、八五
ヴールジュアン	一一、二二	九、五〇三、三九七	減一〇、一六
計	九、五〇三、三九七	八、五三七、四五六	減一〇、一六
聞逸			
グレブヌルド	六二三、五〇三	五四〇、四〇二	減一三、三二
ヌルベルフェルト	五三七、七四二	四九二、〇九八	同　八、四八
墺地利			
維也納	二五三、三二二	二〇五、八三七	減一八、七四
伊太利			
アンコーシス	五、六四九	二、七〇五	減五二、一一
ベルガーム	一二、九四八	一一三、八四八	增一〇、三二
コーム	二二、四三二、六	二〇五、六九八	同　四、〇二
フロランス	二二、〇〇五	一〇、九五一	同　九、一五

レ	二三三八六二	一九六七七〇	同	二二二〇	
ル	二二二二	二九二〇			
第一類	九、八四九、八五〇	八三七二四九五	同	一四九九	
ネルフ	六四五、四二七	四五九二二一	同	二八八五	
ルデモール	一一六六八九〇	八九六三三九	減	三三六六	
瑠璃西	五八八五五九	五〇九、一七七	減	三四八	
グリーン	一五七一三〇一	一三三五六〇三七	同	一四九七	
總計	二四二七二八五九	二一、〇七四八三二			

前表に據り世界に於ける蠶絲取引の大中心たる里昂及美國を相對照するに、里昂は七分一厘七毛なるに美國は其倍以上即ち一割四分九厘九毛の減縮を示し、美國は里昂よりも遙かに著しく商勢不振の影響を蒙りたるものに似たり。

清國芝罘地方産出柞蠶絲（承前）

柞蠶絲の種類及其代價　柞蠶絲は芝罘地方に於て之を灰絲と稱し其内小繭灰絲、大繭灰絲の別あり、小繭灰絲は蠶兒に於ける製絲上部なるものなり。大繭灰絲は蠶兒の最後に製するものなり。

蠶兒に於ける小繭灰絲は百斤に付き四百三十斤より四百五十斤の間に在て最高百斤なり、尤も本年上半期に於ける最低價は三百五六十斤の間に於ける相場なりしが、下半期に於ては最低價五八九十兩、最高價三百五十斤、平均二百二三十兩、同三十四年に於ては最低價四百四十兩、最高價三百四十兩、平均二百二七八十兩、同三十五年に於て最低價三百四十兩、最高價三百四十兩、平均二百二七八十兩、同三十六年に於て最低價三百四十兩、最高價三百四十兩、平均二百二七八十兩、同三十七年に於て最低價三百四十兩、最高價三百四十兩、平均二百二七八十兩、同三十八年に於て最低價三百四十兩、最高價三百四十兩、平均二百二七八十兩、同三十九年に於て最低價三百四十兩、最高價三百四十兩、平均二百二七八十兩、同三十年に於て最低價三百四十兩、最高價三百四十兩、平均二百二七八十兩、同三十一年に於て最低價三百四十兩、最高價三百四十兩、平均二百二七八十兩、同三十二年に於て最低價三百四十兩、最高價三百四十兩、平均二百二七八十兩、同三十三年に於て最低價三百四十兩、最高價三百四十兩、平均二百二七八十兩、同三十四年に於て最低價三

み機械にたゐるに出るものと謂ふべし。然れ共他にして製糸に多の利益あるべしと雖も、絹織にして製糸に多の利益あるべしと雖も、絹織にして製糸に多の利益あるべしと雖も、絹織

會務錄事

第十三回大集會

本年の大集會は福島縣に開催するの豫定なりしが、時局の關係は開催に困難の事情を生じ、早櫻朱唇を破ぶり、楊柳翠綠を帶べるの好季、四月二日を以て蠶絲業の學業たる西ケ原蠶業講習所内に開催せり、來會者は東京、長野、群馬、埼玉山梨、新潟、千葉、茨城、栃木、山形、福島等の數府縣に亘り、無慮二百餘名を數へしが、午後一時酒匂副會頭徐に起て開會の旨を告げ、次に幹事吉池慶正氏は前年度執行せし會計及事務の要領を報告し、尋て左記諸氏の演說あり。

夏秋蠶の擴張……八田達也
製絲器械の改良……田中文助
日蚕問題と蠶絲業……衆議院議員　工藤善助
世界の蠶絲業……農學士　石渡繁雄
生絲の改良……衆議院議員　所篠吉左衛門
蠶絲業と時局……埴野清衛
豐作の禍より良種を得難き乎……戸塚巳之助

時局に於ける蠶絲業者の覺悟……農學博士　酒匂常明

何れも皆有益にして人をして熟然靜聽せしめたり、已上の演說終るや酒匂副會頭は特別會員に對し會議を開き評議員の半數改選を矢て官を宣言し、吉池幹事は評議員滿期退任者の姓名を報告し併て此前則に於て評議員の數を增したるにより半數を形らざれば同名の留任者を定むべきを謂へり、然るに生方五郎氏は退任評議員留職を辭じ、又各評議員選擧は擧て會頭に一任し度と統言し、賛成の聲四方に起り滿場之を和せり茲に於て會頭も之を甘諾し直て指名報告する所あるべしと告げ、次で會議を終了し無事散會をなせり、此日當蠶業講習所に於ては蠶室製絲場の參觀を許し、又各種の繭、生絲、模型、標本等を縱覽せしめられ、會員の神益を得たる殺からざるものあり、依て特に記して盛時の意を表す。

明治三十六年度執行庶務報告

會員の異動

入會者		六百五十四名
退會者		二百九十八名
死亡者		二十八名
會員の現在數		七千百七十九名
名譽會員		二十六名
特別會員		二百五十六名
通常會員		六千八百九十七名

役員、議員及委員

會頭	一名
副會頭	一名
參事	三名
幹事	一名
評議員	三十名
技藝委員	五十八名
地方委員	四十八名
名譽通信委員	三名
通信委員	十五名

參事の選擧及就任

紫藤早、本多邦文郎の二氏任期滿了に付評議員會を開き選擧すべかりしも、當時恰も評議員中養蠶の爲め非常の業勤に煩せるものあると、大阪に於ける第五回內國勸業博覽會に公務なり不出張せる人少からざるとにより、到底規定の出席員數を得難しと認め、特に各評議員に提出用紙を配付し投票を徵したるに、大多數を以て紫藤、本多二氏當選重任せられたりの

技藝委員の囑託

二月二十八日　中村　彦書外二氏に
八月十二日　針塚長太郎書外八氏に

通信委員の囑託

八月十二日　茂村喜三外三氏に

品評會審査委員長及審査委員の囑託

下野支會品四回國蠶繭生絲品評會審査委員長を木下道氏に、審査委員を吉川榮吉氏外九氏に、四多摩支會第一回國蠶繭生絲品評會審査委員長を芳賀國四郎氏に、審査委員を瀧井榮作氏外十一氏に、山口支會第一回國蠶繭生絲品評會審査委員長を中村正路氏に、審査委員を藤井郁太郎氏外六氏に執れも囑托せり。

會頭、參事、幹事及技藝委員の出張

三月二十九日、京都市に於て大集會擧行に付

會頭　松平男爵閣下
幹事　吉池慶正君

九月五日　下野支會第四回國蠶繭品評會擧行に付同支會の申請により會頭代理として

幹事　吉池慶正君

十月七日　四多摩支會第一回國蠶繭生絲品評會擧行に付同支會の申請により

會頭　松平男爵閣下
參事　榮藤享君
技藝委員　芳賀檢四郎君

十一月八日　福島支會總集會擧行に付同支會の申請により

技藝委員　石居一郎君
參事　吉池慶正君
幹事　吉池慶正君

十一月　長野市に開かれる關東蚕業大會に總代の送り
會頭　松平男爵閣下

評議員會

評議員會議を開くこと三回にして左の如し

二月二十五日の議題
一明治三十五年度決算報告の件
二功績調査の件
十二月三日の議題
一明治三十七年度經費豫算の件
二會報改良の件
三明治三十七年度に於ける大集會を福島縣に開催するの件
四明治三十七年度に於ける品評會を三重縣に開設するの件
五明治三十七年度に於て臨時事業として蚕業講話を行ふの件
六功績表彰調査委員選擧の件
七決算委員選擧の件
八品評會規則訂正の件
九基本金利子の件

十支會役員名稱の件

會報印刷部數

六萬九千五百五十部にして前年より增加すること四百十部なり。

蜚蠊驅除懲防の調査

蜚蠊調査ら地方官、新聞紙體裁及會員に囑托し、本會之ら編輯して時時增刊とし七千部ら出版して、會員及各府縣及島嶼巡査へ配付せり。

第十二回大集會

三月二十九日東京市會議事堂に於て開會せり

委員の囑託　松本伯爵氏外二十三氏に大集會委員ら囑托せり。

功績表彰　該編著者に貢獻せる名士に對し本會員より金賞牌ら贈與したるは左の十三氏なり。

佐野理八　波多野鶴吉　島木三郎
ヤーベル、ウォルフ商會　星野長太郎　萩原詮太郎
町田菊次郎　伊藤小左衛門　入田建也
藤本善右衛門　片倉延太郎　菅野平右衛門
高田重右衛門

多年同一の生絲工場に於て忠實に勤務に勤務に遵奉に從ひし製絲工女に對し本會賞より賞品ら贈與せられし者は三重縣三重郡四郷村伊藤製絲所工女石川ツヤ外二十六名なり。

評議員牛數改選　特別會員ら以て會議ら同き評議員半數改選ら行ひしに會員に任することに決せり、而して會員は石原一郎氏外十名ら指名選擧せり。

支會の設立

滋賀縣蒲本郡青氏外十七名の申請により十一月十一日附を以て組織支會設立ら認可したり。

支會の集會及品評會

山口支會　四月二十七日山口縣岩國町に於て役會式ら擧行せり。

京都支會　八月十八、九の兩日編知山町に於て第二回總集會ら擧行せり。

下野支會　九月五日より三日間栃木縣那須郡馬頭町に於て第四回蠶繭品評會ら擧行せり。

會ら擧行せり。

四日壁支會　十月七日より六日間四日壁郡役所に於て第一回蠶繭生産品評會ら擧行せり。

山口支會　十月十三日より三日間山口縣吹田郡役所に於て第一回蠶繭生産品評會ら擧行せり。

島根支會　十月十七日島根縣佐藤町出雲大社内に於て第二回總集會ら擧行せり。

出雲支會　十月二十五日出雲縣飯石郡大社内に於て第二回總集會ら擧行せり。

福島支會　十一月八日福島縣郡山町に於て第二回總集會ら擧行せり。

明治三十六年度會計報告

金壹萬壹千七百貳拾四圓四拾錢九厘　總收入

內譯

金七千貳百七拾六圓六拾錢五厘	會費	金壹千五百四拾五圓七拾參錢	廣告料
金壹千五百四拾五圓七拾參錢	廣告料	金參百參拾四圓九拾九錢五厘	雜收入
金參百參拾四圓九拾九錢五厘	雜收入	內　金貳百五拾壹圓八拾壹錢五厘	雜收入
內　金貳百五拾壹圓八拾壹錢五厘	雜收入	金八拾參圓拾七錢	預金利子
金八拾參圓拾七錢	預金利子	金五拾五圓	假收入
金五拾五圓	假收入	金八拾壹圓六拾九錢九厘	預り金
金八拾壹圓六拾九錢九厘	預り金	金壹千貳百八拾貳圓九拾五錢五厘	家屋購入豫定金
金壹千貳百八拾貳圓九拾五錢五厘	家屋購入豫定金	金壹千百參拾貳圓八錢五厘	繰越金
金壹千百參拾貳圓八錢五厘	繰越金	金拾壹圓參拾五錢	繰越切手
金拾壹圓參拾五錢	繰越切手	金壹萬壹千七百貳拾四圓四拾錢九厘	總支出
金壹萬壹千七百貳拾四圓四拾錢九厘	總支出		

內　譯

金參千貳百貳拾六圓六拾壹錢壹厘	事業費	內　金貳千八百六拾九圓四拾七錢	印刷費

金貳百七拾四圓拾七錢五厘	集會費	金貳百貳拾貳錢	地所敷金
八拾六圓九拾六錢六厘	賞品調製費	金參千貳百五拾圓	預ヶ金
金壹千七百參拾五圓八拾錢五厘	俸給及諸給	金五百拾壹圓五拾九錢九厘	貸金
內　金八百參拾七圓	俸給	金參拾八圓五拾四錢五厘	切手在高
金六百五拾圓貳拾五錢	報償及手當	金六拾五圓	爲替在高
金七拾五圓五厘	傭人料	金貳圓拾五錢	現金
金百七拾參圓五拾五錢	旅費		
金九百參拾七圓六拾九錢	通信運搬費	〇收支計算	
內　金八百六拾四圓九拾六錢	郵便電信料	金九千百五拾七圓參拾貳錢	實收入
金六圓七拾參錢	電話料	金五拾五圓	假收入
金參百貳拾八圓四錢四厘	運搬費	金八拾壹圓六拾九錢九厘	預り金
內　金參拾圓七拾錢五厘	備品及雜費	金壹千百參拾貳圓八錢五厘	繰越金
金八拾八圓五拾七錢貳厘	備品費	內　金壹千圓　雜備金　金百八圓八拾八錢五厘　貸金	
金七圓五拾壹錢	公租	金拾壹圓參拾五錢	繰越切手
金七圓八錢	借地料	計金壹萬四百參拾七圓四拾五錢四厘	
金六拾四圓拾九錢	修繕費	差引金參千八百六拾九圓四拾九錢四厘	實支出
金七圓五拾壹錢	家屋保險料		
金貳拾八圓八錢	給水料	內　譯	
金六拾九圓六拾參錢八厘	官報及新聞	金五百拾壹圓五拾九錢九厘	貸金
金七拾參圓拾六錢九厘	筆紙墨	金參千貳百五拾圓	預ヶ金
金參百拾九圓八拾壹錢	雜費	金貳拾貳圓貳拾錢	敷金
支會交付金		金參拾八圓五拾四錢五厘	切手
內　金貳百拾圓五錢壹厘	補助金	金六拾五圓	爲替
金百五圓七拾五錢九厘	手數料	金貳圓拾五錢	現金
金壹千貳百八拾貳圓九拾五錢五厘	家屋購入金	此配當計算左の如し	

金參千貳百五拾圓　預ケ金
金六拾五圓　爲替　雜費
金貳圓拾五錢　現金　旅費
計金參千參百拾七圓拾五錢　備入料
金五拾五圓　切手
金八拾壹圓六拾九錢九厘　假敢入　現金
差引金參千百八拾圓四拾五錢壹厘　預り金

基本金

金壹千五百六圓八拾貳錢八厘　總高
內譯
金壹千二百參拾五圓四拾五錢壹厘　建築備金
金八拾圓　巡回講話費　同
金九拾圓　製絲家名鑑調製費補助　修身會員費
金貳圓五拾錢　基本金　特別會員一時金
金壹圓五拾錢　同　寄附金
金五圓四拾壹錢　同　基本金利子
金九拾九圓四拾六錢七厘　立卅五年度積
右之通に候也

會頭　男爵　松平正直
副會頭　農學博士　酒勾常明
參事　佐野理八
同　紫藤章
同　本多岩次郎
同　吉池慶正
幹事
同　林驥作
決算委員　月田藤三郎
同　下田伊左衛門

金拾四圓六錢
金四拾六圓九拾八錢
金六拾四錢
金九拾錢
金貳圓五拾錢

三重支會總會

三重支會は時局の必要に鑑み、二月二十六七日の兩日を卜し總會を同縣會議事堂に開き、二十六日には別項の如く會則の改正を行ひ、役員を選擧し、左記の問題を議決し、二十七日には松平本會々頭の時局に對する蠶業家の覺悟に就て一場の講演あり、右終て吉池本會幹事の日露開戰と蠶絲業に關すゐ講話あり一同滿足を表し散會せり。

役員

會長　足立丈次郎
幹事　山村作左衛門　安東潛　樋口貢
臨田重太郎　堀木虎吉

會則改正

一第一項を　略
一第二條を　當會は本會の主旨を遵守し縣下蠶絲業の改良進歩を圖るを以て目的とす
一第四條を　刪除
一第六條を　本會の規則に基き當會役員を定むること左の如し
　支會長　名譽顧問若干名　幹事五名
一第九條を　會長は評議員會に於て選擧し幹事は評議員會之を選定す其記は會長の命令するものとす
一第十五條を　當會に地方員若干名置く評議員會に於て選定し會員より當會の權限に關する事務を囑託するものとす
一第十六條及第十七條を刪除す
一本會則中幹事員とあるものは總て之を會長と改むること

決議事項

一出征軍人遺族の養育として村に遺蠶の廣なからしむるため蠶種の製造及蠶飼育に飲き代官の優宜を與へ、其他模範の方法を以て及べく助力なすこと。
一各養蠶家に蠶室及桑園に對し度外の設備補助を協み、結果の可否を計ること。
一各養蠶家に蠶室の方法に於て申合の上纏め復命を評定し、互に桑園の過不足を補給し不足の利益を復の時局に鑑み

山形　設樂龜治郎　同　境　卯一郎
富山　田村惟昌　同　松岡　科
同　清水忠盛　同　光永直美
島根　細田新三　北海道　松前養蠶傳習所
愛媛　成田太久馬　同　蒐會
熊本　原住常雄

計三十六名

右の内にて十時氏は林鶴作氏、佐塩氏は京都支會、瀬崎氏は狭間虎吉氏。新宮氏は松原鷹次郎氏。島田氏は増子德之助氏。多田氏以下十一名は滋賀支會。岡村氏は矢ケ崎三彌氏。松島、小野の二氏は二宮鶴松氏。山浦氏は高島涼多氏。添田、雷久保の二氏は片岡秀之助氏。田村、清水の二氏は富山支會。成田氏は宮田僅三郎氏。原住氏は田中武雄氏就れも紹介せられたり。西山、高岡、川出、設樂、細田、塙、松岡、光永の八氏及松前養蠶傳習所同蒐會は各自に申込受れたり。

蠶桑雜觀

春挽絲と内地需要

近頃内地に於ける機業は輸出向きの好況により、各地とも頻りに製造を爲し居れるを以て、地道ひとしての生絲は昨今に至り賣行好調を示し居れるが、目下の處内地にて日々羽二重の原料として消費するは川俣福井を始め金澤地方を宜なるものとし、其他の新興地を合すれば一日の消費高二百個を下らざるべきを以て、一ヶ月の原料は六千個内外なるべし、春挽絲の出初より新右の端境迄に横濱に來るべきは二萬個内外と概算せば大差なきを以て地道が一ヶ月六千個とし四五六月迄現下の狀態を持續すとせば一萬七千個にして、今後出廻るべき生絲今然地道絲に供するも足らざるの有樣なり、故に假令欧米市場の注文が依然薄ら居れりとするも市中に在荷の誠潤を見るが如き事はあらざるべしと云ふ。

長野縣松代町の製絲業

松代町製絲業の進歩し居ることは夙に世人の知る處にして其生絲の品位精良にして横濱市場に於てもエキストラ（優等品）の價格を有し需用者の歓信を博せり、然れども凡を事物の變遷は免かれざる數なれば一進一退其度を失せず商戰場裡に臨て其雄姿を爭ふとは當業者として常に注意せざる可からず、殊に今回の時局は實に振古未曾有の大事にして銃の宣戰の聲勢を拜讃せる國民なるもの誰か恐怯感激せざるものあらんや、此時に當り我國產中の冠たる蠶絲業をして倍々擴張進歩を圖り國恩の幾部分を報ずるは時局に適したる所業なりとす、本會地方委員六工社今長羽田桂之測氏の發起にて同地方同業者協議を以て三月三日より九日迄一週間製絲講習を開催せり、聽講者は六工社及六文錢合資會社は各男女を合せて二十六名、窪田館は十二名本六工社五名、白鳥館は十二名松城館は七名其他に傍觀者六工社五名、松城館一名ありたり。

余は松代製絲講習會へ出張し實地に就き親しく視察せしが生絲品質に於ては敢て欠く處なし、是れ當地の製絲家は總て共然式器械を用ゆるを以て機業家の好める彈伸度及抱合等を極めて佳良ならしむるに依る、唯惜むらくはピリ類の多き

こと是れなり、尚各社に適任の現業技師を用ひざるは大なる一の欠點にして、教婦を用ひざるは第二の欠點なり、爲めに工女の事業を執る自分の得手勝手なる有樣にして多少生絲の品位に不揃ひを生ずるの傾きあり、又事業の施行方甚だ緩慢なるか爲め長時間の事業をなすに拘はらず繭絲高の少なきこと第三の欠點なりと云ふ可し、（本會技師委員石原一郎氏報）

組合瞥見

福島縣南會津郡蠶絲同業組合三十五年業務成蹟

一製糸檢査の狀況
甲生絲　繭改檢査所五十五所な設置之が檢査をなす、本年度に於ける檢査
乙蠶種　熱點數一萬二千〇七十二點にして不合格となりたるものなし。
一蠶種　本年度に於ける檢査數三千今百五十九枚にして、内三千四百三十九枚合格、四百二十有廿不合格なり。
一教員講入
甲蠶種の講入　蠶屋各部の教員講入を實行し蠶種を以て組合員に配布せり。
乙蠶種の講入　鶴田、山中高原、赤木、島内等の種類數高木を共同講入の方法により組合員に配布せり。
一消毒
蠶室蠶具消毒の爲硫黄十個、フオルマリン液二十瓶を購入し強制的に蠶病消毒を實施せしめ、且蠶具は熱氣殺菌を實行したるに其の成績頗優良なり。
一蠶業講習所の設置
郡内七ヶ所に講習所を設置せり、其の講習生は男二百二人女三十二人なり。
一郡役場所の增設
曾て郡内に百二十七ヶ所の郡役場なる乾繭場を設置せしが、本年度に於て相當の修繕を施し且十ヶ所の增設をなせり。

一組合与組織せる營業に關する医況
甲生絲　共同販賣の利益ありな信し樣演に直輸するもの殆んど全産額の八分な占む。
乙繭　例年郡内に、病本各師及本郡名會洋、郡長、大四等に輸出し好評を受し
乾燥物　海外輸出の好況と共に賣行順調なり。
副産物　蛹は食料として販賣すれども信用、伊藤等の地方より輸入せらるゝ
一組合員の業務に對する情況
近年蠶業者の數を知如せり、飲中勢力分配の都合により夏蠶を飼育するもの多し。

▲櫻花鮮し　去る塾雰時に曉の鐘聲二日に加はる百蠶者が戦國用刺一刻
▲戰闘上に　已切迫する兆りり、勝利の計劃不淡の勇武講拓なる豊美を結べ。
▲知何に青　於ける静級軍隊の勝敗と共に成るは自然なるも、笑武
▲蠶業界焦　蠶の技に富むも、蠶種類恐にして科学なく、蛹盤に見ゾ下から
▲消毒の無　紅の急務に蠶病の防禦にあり、完全の消毒を行ひ蠶蛆を駆治す
▲然れども　るにあらずんば蠶蠶の豊作期て閉しがたし、必ずや沉黙を築ず。
▲此等は消　ものは恐れ世界術上の無論に成熟を無者にて、
▲一尤虚を　講習後の種類病蛹を知らざる者が蛹の遺物のみ。
▲蠶室は清　蠶室に於ける蠶人なりと謂ふべし、何となれば蠶病は一向平氣
▲人盛を　映る高大蠶を傳ひ人なして消毒に講習せし者、共に於て蠶相
▲人盛を　隆して有て、共等の武徳母長大蠶業界の古郷を放棄するの要効し。

▲蠶業界に　興ふる最も悲惨の罹災に千里の絲野なる一朝にして消死せしむ、苦人は一瞬災害なき病り一面豫防の策を講ずるか望。

▲需害の豫　防げ一端行にては到底成効すべきにあらず、宜しく個人なるべくもすべし、共同一致の設点若豫防の策を講ずるか望。

▲專賣の本　業井其代議士臨時議會の報告書を草し、國家の富源養蚕を主として蠶種の專賣を攝り利はす、而して政府も骨貧民と吹立つ。

▲蠶種の專　賣なしと雖たる金を各府縣に一萬四つ分配し、夫れで以つ養蠶同胞の救恤を謂らんとすと、蠶の瓦き誤解等。

新刊批評

養蠶示教　農學士廣瀬次郎　金成金彦合著　東京　明文堂發行

河原農學士は蠶の四ケ原に繭き悲な蠶所の研究に変れ、當時時協に盛りし大森農學士と双璧と称ぜられ、幾多の創見、若干の著述、蠶業上に獻する所勘まとなり、新規なること有益なることは敢なるに、富岡蚕場の愛國なり、才子佳人拇しめたり、別要編蚕者の一身に纏れり、富岡蚕場の愛國なり、才子佳人拇して愛緩に赴かもへや、前農學士の聲者として聞ふ、斯界より其筆の事を聚び出りたるもの金力手持た美人學の魂を起さしめたり。然るに頃日金成金彦氏と共に養蠶示教なる一書を著はし、苦人なして此の書に之を買し斯業界の馬之を絶ふ、本内容九篇、蠶の別より生理を說き、蚕の蠶所、蠶具、蠶種、飼育、上蔟より繭製種、及ぼし、終に蠶所の実業を述べ、夫より蠶所の豫防編を以て、農學士宮原忠正著　東京日本蠶絲協會藏版

實用蠶業全書

本書は宮原農學士の著に係り實用蠶業全書と題ふ、而して附製絲法とあれども附錄の部殺なり寧實用蠶絲全書の名を冠らしむるこそ適なりんと思はる、第一編蠶桑に始まり第十三編蠶絲業法令に終り、四六菊紙数七九一頁分有す、又以て如何に各種の蠶絲業に關係ある事項を尋ぐ聚く抽出し来て編纂したるものなるかを知るに足るべく、之を渡了すれば蠶絲業に関する概念を修養するを得べし、殊に蠶業の著者光種の觀あれども、此の如く一冊中に蠶絲業上必要の事實を網羅せるものは二種なり、苦人は斯界に好著の現れたるにも係らず、少部名を多とす、唯言文一致なるにも拘らず、振假名附たるにも係らず、少部名を用ゐたるは其味の觀なりんかもず、巻頭に著者發見のアートメイヴの體說明圖繁瑣圖あり、一種の光彩を添ふ。(豫約價五圓六拾五錢)

養蠶法教科書　蓮田禎次郎著　東京　興文社發行

本書は甲種農業學校及蠶業學校の爲に編纂せるものなれど別冊の説あるにあらず、之を編も、編述序あり行文簡潔、教科書として最も適當なるものの如し、加るに新質の普及、印刷の鮮明なる種に觀る所なり、附錄に蚕桑發見の一ートメイヴの體說明圖說及飼育標準表あり、紙数二〇〇頁(定價七拾五錢)

蠶體解剖教科書　同　同　上　上

前書と同一スタイルにして實驗、家畜の外觀、蠶體の構成、蠶兒内部の構造、卵子の六章に分ち、附錄として實驗法を添ふ、而して別冊に結論の聞ある石渡農學士の閲なり、又以て好教科書として敢證か奏くるや必ず紙数一五七頁、定價七拾錢)

寄贈書目

實用蠶業全書　宮原忠正著
養蠶教科　明文堂
第十九次農商務統計　農商務省農務局
發地整理施行一覽　群馬縣農會
發地整理局に関する農會の施設すべき事項　松橋房吉著
一升蚕繭個數早見表　宮原忠正著
Alessandro Malle P. Schultze Encyclopedia di Padova. Vol. XXXVI.
大日本農會報　第一百七十二號

北海道農會報　第三十八號
島根縣農會報　第三十九號
大日本山林雜報　第七十一號
第二百五十六號
新潟縣農會報　第三號
滋賀縣農會報　第二十四號
山口縣農會報　第五號
岐阜縣農會報　第百三十四號
廣島縣農會報　第百〇五號
山梨縣農會報　第四十號
福島縣農會報　第十五號
新潟縣蠶絲會報　第四號
蠶業雜誌　第八號
蠶業雜誌　第百五號
兵庫縣蠶業會報　自第三十三號
通商雲業　至第三十一號
京阪蠶業新報　第十八號
染織之友　第四卷第十二號
工業雜誌　第二百八十七號
大日本織物協會々報　第二百九十七號
勝者月報　第二卷第六號
秋田公報　第二百八十一號
南北蠶報　第二十三號
蠶のすゝめ　第五十二號
蠶業新報　第百三十一號
東洋蠶報　第六十九號
蠶業雜誌　第二百七十號
動物學雜誌　第四卷第八號
實業時論　第百八十五號
興農雜誌　第百十七號
北海　農會
島根　農會
大日本　山林會
新潟　農會
滋賀　農會
山口　農會
岐阜　農會
廣島　農會
山梨　農會
福島　農會
新潟　蠶絲會
福島　蠶絲會
兵庫　蠶絲會
外務省　通商局
京阪　實業新報社
實用　蠶業
工業　雜誌社
大日本　織物協會
東京　蠶絲商組合
蠶業　新報社
農事　雜報社
東洋　學會
大日本　實業學會
東京　動物學會
東京　興農會
東京　統計協會
東京　教育會
横濱　蠶業會議所
東京　植物學會
工業　化學會
大日本私立衛生會雜誌
工業雜誌
蠶業　雜誌社
帝國　農業一致協會
大日本　私塾學會
産業　雜誌
第百七十六號
第百七十一號
第八十九號
第三十五號
第三十五號
第三十三年
第九號
第二號
第五卷第二號
第五十八號
第二十一號
第八號
第四十八號
第三十八號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
第百四十六號
第百四十五號
第百四十四號
第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號
統計集誌　東京統計協會
東京教育雜誌　東京府教育會
月報　横濱商業會議所
植物學雜誌　東京植物學會
工業化學雜誌　第七編第七十三號
工業雜誌　第二百八十八號
大日本私立衛生會雜誌　第二百五十八號
大農園　帝國農業一致協會
蚕桑集誌　第三十五號
蚕業新報　第三十三年
産業雜誌　第九號
蠶業會報　第二號
蠶業雜誌　第五卷第二號
蠶友雜誌　第五十八號
蠶業組合　第二十一號
東京蠶業講習所　第八號
蠶業新報　第四十八號
蠶業集報　第三十八號
秋田蠶業　第百四十七號
工學の塔　第百四十六號
埼玉縣農會報　第百四十五號
中央農業報　第百四十四號
土佐蠶絲時報　第百四十三號
第百四十二號
第百四十一號
第百四十號
第百四十九號
第百四十八號
第百四十七號

人事彙報

▲船越衛氏　本會特別會員なる男爵船越衛氏は今回正三位に敍せられたり。

▲三吉米熊氏　本會技藝委員農學士三吉米熊氏は此程高等官四等に陞敍せられたり。

▲石居一郎氏　本會技藝委員なる蠶業講習所技師石居一郎氏

は今回八級俸を下賜せられたり。

▲永井米藏氏　本會技藝委員なる蠶業講習所技師永井米藏氏は今回八級俸を下賜せられたり。

▲石川準太郎氏　本會技藝委員なる蠶業講習所技師農學士石川準太郎氏は今回十級俸を下賜せられたり。

▲金森安之助氏　本會特別會員にして亘理蠶業學校教諭なる金森安之助氏は今回十一級俸を下賜せられたり。

▲加賀山辰四郎氏　本會特別會員なる長野縣技師農學士加賀山辰四郎氏は今回正六位に敍せられたり。

▲足立丈次郎氏　本會技藝委員にして三重支會長なる三重縣技師農學士足立丈次郎氏は今回正六位に敍し六級俸を下賜せられたり。

▲中村彦氏　本會技藝委員なる農商務技師農學士中村彦氏は今回正六位に敍せられたり。

▲浦部嘉四郎氏　本會秋田縣地方委員なる浦部嘉四郎氏は此程同縣農事巡回教師の職を退きたるが由利郡蠶絲同業組合に於ては氏が赴任以來熱誠を注きて蠶絲業の改善擴張に盡瘁せるを以て其功勞の幾分に酬ゆる爲め同組合通常會の決議に依り銀盃一個に感謝狀を添へ同氏に贈りたりと云ふ。

▲齋藤省三氏　本會特別會員神奈川縣高座郡藤谷村齋藤省三氏は資性篤實夙に本地養蠶製絲の不振を慨し、之が刷新興起を企畫して良法を普く他の地方に求め機械を購ひ蠶室を築き、塾工を招き蠶種を頒ち曾て會社を設け、又た組合を設け、鋭意事に從ふ凡二十有五年、斯業を傳習せしもの一千名、費す所數百圓功勞からずと爲す、其他公用事務に勉むる亦た年あり洵に奇特なりとし、其賞として木杯一組を下賜せられたり。

交詢餘錄

○秋蠶種分與　一人框製二枚宛（原種用檢査濟）百名限り分與す望者郵稅箱代十錢を添へ五月三十日限り申込むべし　奈良縣磯城郡纖田村　田村　多門

○春蠶種分與　櫻蚕種一人框製二枚宛（檢査濟）二十名限り分與す望者郵稅箱代十三錢を添へ五月三十日限申込むべし（但し來年度分）　群馬縣多野郡新町岸博蠶館　三木　和吉

○志望　蠶業に關する職務に就任たし御紹介を請ふ履歷其他照會次第報知すべし　福島縣立蠶業學校本科卒業生　國　英藏

○蠶微鏡請受　八百人十倍位の顯微鏡にして完全なる中古一臺附屬品共請受たし詳細御申越を請ふ　山形縣東置賜郡屋代村　武田作右衛門

○拓苗　に載る各地會員より續々申込あれども最早本年は一本もなし今後希望者は代金送付前往復葉書にて一應問合ありたし　群馬縣多野郡奥士里村　山田　鼠松

●謝辭　本會報第九十三號欠本に付讀與に預り度旨本欄に告白したるに埼玉縣杉田彌三郎君より早速寄送を辱ふしたり茲に同君の好意を深謝す　西ケ原試驗場にて　堀　正太郎

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES REPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

(Mars 1904.)

	Report.	Brought over.	Arrivé. Arrived.	Vendu. Sold.	Exporté. Exported.	Renvoyé. Sent back	Amporter. Brought forward.
	P.fond.	P.fond.	P.fond.	P.fond.	P.fond.	P.fond.	P.fond.
Filature. Filature.	7.381	69	3.138	2.787		987	3.731
Zogeri. Retorcl.	1.785	410	2	100		376	1.310
Kobaba. Ordinyarn.	410	47	2	16		280	112
Ashiro. Other.	47		2			20	28
Total.	9.629		2.211	2.903	4.075	1.660	7.217
1903.	7.728		2.480	4.208	4.130	1.092	4.908

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES REPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

(March 1904.)

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK.

	Soie. Silk.				Prix moyen. Standard Price.						Maximum du prix. Highest prices.			
					Filature.									
					Hosoito. Extra. No. 1		Futoito Extra. No. 1		Zaguri. Rereels. Extra. No. 1		Kakeda. Orikayeshi. Extra. No. 1			
ours. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back.	Exportée. Exported.	yen 1000	yen 970	yen 1015	yen 945	yen 960	yen No stock	yen 920	yen 900	Noms des filateurs Names of filaturs.	Prix. Prices.
1	*Piculs.* 98	*Piculs.* 201	*Piculs.* 95	*Piculs.*									Shoyoken.	980
2	125	206	9		"	"	"	"	"	"	"	"	Tō-unkwan.	1055
3	52	231	40	75	980	950	950	930	950	"	905	885	Shimshosha.	980
4	56	195			"	"	"	"	"	"	"	"	Hebikuiseishijō.	950
5	23	133	23	1.632	"	"	"	"	"	"	"	"	Koguchiseishijō.	920
6	7													
7		67	61		980	950	950	930	910	No stock	910	885	Sanzensha.	907½
8	31	14	3		"	"	"	"	"	"	"	"	Hinoseishijō.	935
9	3	43	41	159	"	"	"	"	"	"	"	"	Yatomiseishijō.	940
10	26	123	47		"	"	"	"	"	"	"	"	Goshukwan.	970
11	73	204		162	"	"	"	"	"	"	"	"	Rokumonsenseishikwaisha.	1000
12	77	153	60		"	"	"	"	"	"	"	"	Kubotakwan.	1000
13	8													
14	46	141	104		985	950	950	930	910	No stock	910	885	Yajimasha.	907½
15	132	181	48	58	"	"	"	"	"	"	"	"	Tanyamaseishikwaisha.	940
16	82	168	5		"	"	"	"	"	"	"	"	Araiseishijō.	960
17	70	83	86		"	"	"	"	"	"	"	"	Mikawaseishikwaisha.	4020
18	112	137	219	1058	"	"	"	"	"	"	"	"	Akitsukwan.	935
19	136	94	26	213	"	"	"	"	"	"	"	"	Kubotakwan	1000
20	43													
21	55				985	950	1000	930	910	No stock	910	885		
22	35	71	183	168	"	"	"	"	"	"	"	"	Saishinsha.	900
23	92	66			"	"	"	"	"	"	"	"	Ōtomiseishijō.	950
24	47	49	94		"	"	"	"	"	"	"	"	Rokumonsenseishikwaisha.	1000
25	98	69	163	45	"	"	"	"	"	"	"	"	Fukuseiseishijō.	970
26	92	142	69		"	"	"	"	"	"	"	"		Unknown
27	31													
28	38	63	231		970	940	1000	930	910	No stock	900	875	Mikiharaseishijō.	920
29	119	28		69	"	"	"	"	"	"	"	"	Tsukaharaseishijō.	900
30	98	42	53	431	"	"	"	"	"	"	"	"	Zenshinshi.	912½
31	246	53		4	"	"	"	"	"	"	"	"	Tenrinsha	930
	2.211	2.953	1.660	4.075										

1 *yen* vaut environ fr. 2.50. 1 Picul = 60 kilg. environ.

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Pendant la mois de Mars, notre marché a été très calme, ce qui arrive chaque année vers les mois de Fevrier et de Mars. Mois à la fin du mois, les soies filées en printemps étant arrrivées peu à peu sur les marchés, on peut, dans peu de jours, espérer une période d'activité. Par contre la demande venant de divers côtés du Japon a été extrêmement animée, Habutaï a donné lieu, dans l'intérieur du Japon, à un contingent satis fais ant de transactions. Le nombre des balles renvoyées aux centes industriels du Japon a atteint presque la moitié de celui des balles exportées. En somme, il est à peu près certain que l'existence faible des stocks ne peut qu'apporter un sérieux élément d'appui pour fuciliter de nouvelles améliorations.

Les tableaux suirants indiquent d'ailleurs le mouvement des soies durant le mois de Mars.

RAW SILK MART OF YOKOHAMA.

As it had often been met with in February and March, the Yoaohama Silk Market was characterized with dullness throughout the whole part of March last. But it is expected that the market would become brisk as spring-produced silk has gradually been commenced to be marketed. On the other hand, the inland transaction has steadily been increasing with the favourable condition of Habutae exportation, and more than a half number of raw silk already marketed had been sent back to the producing localities to meet the demand of the native weavers. It may be conjectured, therefore, that under such circumstances, those which are now in market and the spring production to be marketed will not exceed 30,000 bales in all, a large quantity will not be held in stock until the opening of the new season.

The following diagram shows the movement of raw silk during the month of march last :—